



第28号

編集発行
園田学園女子大学
シニア専修コース
「けやき便り」
編集クラブ



教育では「比較」することが ますます大切になる

園田学園女子大学
人間教育学部・教授 堀田博史

シニア専修コース・情報学科で「インターネット活用(後期)」を担当します。堀田博史(ほった ひろし)です。学術情報部長を兼務しています。よろしくお願いいたします。

みなさんは、GoogleやYahooで、キーワードを入力して検索した経験があると思います。検索結果から、参考になる情報もあれば、想像した情報ではないこともあるでしょう。Googleだと「ひょっとして〇〇ですか?」のように、コンピュータからキーワードの修正を提案してくれることもあります。検索結果で表示された内容を、そのまま鵜呑みにするのではなく、少しキーワードを変えて検索し、その結果を「比較」してみるのもよいでしょう。2つの検索結果の共通点と相違点を知ることが大切です。

近頃、ChatGPTなど言語生成系AIの教育分野での活用が議論されています。文部科学省は、夏あたりに運用のガイドラインを公表する予定です。学生は、ChatGPTで課題に回答でき、示された内容を、そのまま自分の回答として、提出することもできます。ここでも、ChatGPTで示された内容と自分で調べた内容を「比較」して、その内容を精査することが大切になります。

自分の意見と友達の意見を比較する。Google検索した複数の結果を比較する。そしてChatGPTで示された内容と自分で調べたり、考えたりした内容と比較する、いわゆる情報活用能力が、いま学習の基盤となる資質・能力として求められているのです。

2023年3月に、マイクロソフトは、GPT-4のAIを組み込んだMicrosoft 365 Copilotを発表しました。日本でも今後利用できるようになります。例えば、Copilot in Excelでは、分かりやすいグラフの作成など、Copilotに対してチャット形式で指示を伝えると、自動的にグラフが作成されます。ここでも、AIが生成したグラフを自分が考えたグラフと比較して編集することが求められます。

教育において「比較」することが、私たちの知識をさらに豊かにしてくれます。きっと!

目次

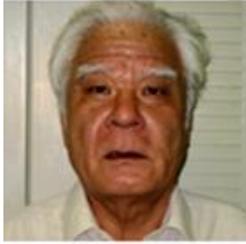
教育では「比較」することがますます大切になる……………	人間教育学部・教授	堀田博史	P1
目次……………			P2
先生方からのメッセージ……………	講師の先生方		P3~P6
令和5年度入学式……………	編集クラブ		P7
令和4年度卒業式……………	編集クラブ		P8
新入生誌上座談会……………	編集クラブ		P9・P10
卒業生からのメッセージ……………	(文歴)・(国際)・(情報)	卒業生	P11・P12
コロナ座談会「園田シニア生はいかにしてコロナ禍を乗り切ったか」……………	編集クラブ		P13・P14
〈特別寄稿〉人を憶念する……………	(国際)先生	玉城毅	P15・P16
〈特別寄稿〉歴史との私的交際法……………	(国際)先生	山口悟	P17
〈にんげん探訪〉昨日から学んで、今日を生きる……………	編集クラブ		P18
人生とは心のあり方だ〜映画「エンパイア・オブ・ライト」〜……………	文歴3年	田中祐二	P19
新しいお札の顔 渋沢栄一について……………	研究生	馬場正子	P20
漢詩を学ぶ(その二)……………	研究生	松原光治	P21・P22
「無を祀る」屋根に棲む神々……………	研究生	井上聖明	P23
四番目の故郷 スイス・ジュネーブ……………	国際1年	林富美	P24
「28年前」過去を振り返ってみて……………	研究生	池田正子	P25・P26
有吉文学の魅力と映画化作品『非色』……………	文歴3年	田中祐二	P27・P28
文学歴史学科 新入生歓迎会を開催……………	文歴3年	南畑早苗	P28右
「文化人類学入門(後期)」受講生が民博見学……………	国際2年	濱口祐一	P29左
文学歴史学科9期生「二都を行く」……………	研究生	木下俊造	P29右
私のシニアライフ その時私の人生観は変わった……………	国際3年	三谷美沙子	P30
「琵琶湖疏水」聖地巡礼の旅へようこそ!(蹴上編)……………	国際2年	濱口祐一	P31・P32
リベンジ 種子島?……………	国際3年	鈴木好夫	P33
阪急武庫之荘駅周辺散歩……………	研究生	高山純子	P34
9月15日動転 生活が一変……………	研究生	中村米三郎	P35
よもやま話の会報告 出会い・つながり・学ぶ……………	文歴3年	河田かつのぶ	P36
日本一周 船の旅……………	国際(休学中)	富田宏和	P37~P39
阿蘇くじゅう国立公園「タデ原湿原」吟行……………	元研究生	春山悦子	P40
おやじバンド「THE GAKU-YOU」……………	研究生	徳田将之	P41・P42
続 シンガポール一〇メモ……………	国際2年	角口博敏	P43
上越・信州雪見旅 雪と想い出を求めて……………	文歴3年	小笠原昭博	P44
わたしの練習作品 水彩画……………	国際2年	山根邦男	P45
〈クラブ・同好会 活動報告〉カラオケクラブ・軽音楽クラブ・テニスクラブ・朗読倶楽部・ゴルフ同好会……………			P46~P49
社会連携部 生涯学習センターからのお知らせ……………	生涯学習センター		P50
編集後記、「けやき便り」に投稿を!……………	編集クラブ		P51・P52

シニア専修コースでご指導を頂く先生方から メッセージ

(敬称は省略、順序はあいうえお順。後期ご担当で本号に掲載されていない先生は、次号に掲載させていただきます)

1 段目	名前	2 段目	写真	3 段目	役職名
4 段目	担当科目	5 段目	メッセージ		

文学歴史学科					
大村 拓生		桑原 一歌 (くわはら もとか)		芹澤 剛	
					
関西大学非常勤講師		本学非常勤講師		本学教授	
日本史学 (3) (前期)		日本文学 (2) 日本古典文学研究		日本文学 (1)	
<p>日本中世史を研究してきました。尼崎をはじめとした阪神間の地域に関わる歴史を具体的な史料に即して皆さま方と考えていきたいと思えます。</p>		<p>学ぶ機会がある、人と集まることができる、という幸せを忘れずに日々をすごしたいものです。日本の古典文学をたどる道りをご一緒します。</p>		<p>持ち歩きの便により電子書籍を読むことが増えました。紙をめくって進み、戻る感覚はやはり味わい深く、消えません。高知から京都まで実際に船でめぐることができれば、新しい『土佐日記』が体験できるのでしょうか。</p>	
中村 直人		原 朋志		箕野 聡子	
					
関西大学非常勤講師		関西学院大学 文学部 非常勤講師		神戸海星女子学院大学教授	
日本史学 (2) 戦国大名とその時代		日本史学 (1) 奈良朝人物史		日本文学 (3)	
<p>日本中世史(寺院史)を専門としています。授業では、鎌倉時代から戦国時代の歴史について扱います。時代の制約の中で、先人達はいかに生きてきたのか。私自身考えながら、皆さんに提示することができたら幸甚です。</p>		<p>日本古代史、主に飛鳥・奈良時代が専門で、講義もこれらの時代の内容が中心です。 一般的にはマイナーな人物や事件も取り扱いますが、古代の魅力が伝えられるよう頑張りまします。よろしくお願ひします。</p>		<p>関西を舞台にした作品や関西で愛されている作品を紐解き、そこに描かれた文化やメッセージを考察します。すぐ出かけられる場所に眠る物語の数々が、皆様の日常を彩っていくことができると願っています。</p>	

国際文化学科・情報学科		
玉城 毅	樽井 由紀	松山 利夫
		
奈良県立大学教授	奈良女子大学非常勤講師	国立民族学博物館・ 総合研究大学院大学・ 平安女学院大学の名誉教授・ 平安女学院大学非常勤講師
文化人類学入門（前期） アジア太平洋文化論（前期）	国際総合研究	多文化共生論 日本の風土と文化Ⅰ（前期） 日本の風土と文化Ⅱ（後期）
世界と自己に対して心を開き、常に新鮮に向き合う、そのような学問を実践したいと考えています。	アメリカはあなたにとって身近な国でしょうか。遠い国でしょうか。アメリカは広大な土地を持ち、西海岸、東海岸、その間に位置する内陸部、一つの国でありながら、異なる歴史と文化をもっています。この授業ではアメリカであまり語られなかった、人種的・性的マイノリティ、非白人移民、ジェンダーにも視点をおいてアメリカの歴史と文化を紹介します。	仲間を増やそう。旺盛な知的好奇心を満たそう。
山口 悟	小田桐 良一	垣東 弘一
		
大阪学院大学教授	本学教授	本学教授
国際地域文化 西洋史概論	プログラミング（前期） プログラミング応用（後期）	基礎情報（前期） Web応用（後期）
歴史を楽しみましょう。	コンピュータでプログラムが動くことの理論の導入的な内容や、ブラウザ上で動作するビジュアルなプログラミングでの実習を担当します。プログラミング（後期）では、コンピュータに実行させたい事項を考えながら取り組みます。	対話で質問すると文章で答えてくれる人工知能ツール「チャットGPT」が昨年11月に公開され、人工知能が身近なものとなりつつあります。これからの情報社会は大きく変化しそうですが、私たちと一緒に情報をしっかり学んでいきましょう！

情報学科		
難波 宏司	野口 聡	堀田 博史
		
本学非常勤講師	本学非常勤講師	本学教授
課題研究 プログラミング応用 (前期) 基礎情報 (後期)	インターネット活用 (前期) 応用情報 (後期)	インターネット活用 (後期)
最近AIチャットを使っています。誤りを指摘すると、素直に謝るチャット、ごまかすチャットなど様々です。素直なチャットはなぜか応援したくなります。	人生100年時代になってきました。今の時代を便利に生きるには、インターネットをうまく使いこなせる必要があります。授業では、様々なアプリケーションを利用して、新しいアプリケーションに触れることを目的に実施します。是非、楽しみながら学んでください。	近年、AIがより身近に感じられるようになりました。人間が頭でイメージしていることを、言葉にすれば、コンピューターが完成品に近いものを提案してくれます。さあ、AIを生活や仕事に活かせるか、試してみませんか。
山本 恒 (ひさし)	米田 浩	植田 みどり
		
本学名誉教授	本学非常勤講師	TA (ティーチングアシスタント)
応用演習Ⅰ (前期) 応用演習Ⅱ (後期)	基礎演習Ⅰ (前期) 基礎演習Ⅱ (後期) 応用情報 (前期)	課題研究 (前期) 応用情報・課題研究 (後期)
皆さんは「講義を受ける」というスタイルに慣れておられますが、学ぶことはネット上でできる時代になってきました。せっかく園田で共に学んでおられるのですから、講義を受けに来るだけでなく、学生生活を仲間とともにエンジョイする方策を生み出して欲しいと願っています。	GIGAスクール構想で、小学生からタブレット端末を活用した学習を進めています。本学のシニアの方々には生涯学習として、ICT活用を楽しみながら学んでおられます。毎回、私はみなさんからパワーをいただいています。今年も、共に学びましょう。	授業や自習中にパソコンのことで分からないことがあります。いたら気軽に質問してください。一緒に考え解決するお手伝いができればと思います。よろしくお願ひします。

情報学科・共通選択		
清水 静 (しずか)	中石 利奈 (りな)	浅田 慈照 (じしょう)
		
TA (ティーチングアシスタント)	TA (ティーチングアシスタント)	高野山真言宗本山布教師
基礎情報・基礎演習Ⅰ (前期) 基礎情報・基礎演習Ⅱ (後期)	応用情報・プログラミング・ 応用演習Ⅰ (前期) インターネット活用・ Web運用・応用演習Ⅱ (後期)	peel off 座禅入門Ⅰ (前期) peel off 座禅入門Ⅱ (後期) ～仏教の基礎と座禅でレジリエンス～
コンピューターを使う機会が増えていきます。WORDなどのアプリケーションの活用やホームページ作成など、出来ることが増えると楽しいと思いますので、一緒に学んでゆきましょう。	パソコンって、すごく難しそうだし壊してしまいそう・・・なんて思われず、たくさん使ってみてください。ご不明な点があればご遠慮なくお声かけを！ みなさまがよりパソコンを楽しめるサポートを心がけてまいります。	理論と実習で、感情の処理方法を講義しています。自分の状況を観察することがスタート。正門をくぐると、櫻が美しいです。櫻の花言葉は、幸運・長寿。日々色々ありますが、自分らしく一歩踏み出し、前進して下さい。
橘 弘志	谷川 泰教	
		
NPO法人国際社会貢献センター 関西デスク コーディネーター	高野山大学名誉教授	
国際社会の諸問題 (前期)	仏典を読む	
本年度の講座は、オムニバス形式を踏襲しつつも、1人の講師が3コマを担当する形式となりました。これにより課題提起と解説がより「深く」皆さまのご理解に資するものとなれば、企画をした者として喜びであります。	書店では一般向けの仏教書やブツダに関する本を多く見かけますが、できるならブツダのナマの言葉に近いものを自分の目と心で読んでみたいものです。そのお手伝いができたらと願っています。	



ご入学おめでとうございます

令和5年度 シニア専修コース 入学式

本年度のシニア専修コース入学式が4月13日、3号館のAVホールで行われました。新入生は、文学歴史学科15名、国際文化学科17名、情報学科14名で、合わせて46名の入学式となりました。



大江篤学長の式辞



齊藤悦一理事長の挨拶



寺田豊部長の挨拶



◀ 新入生を代表して入学許可証を受け取る文学歴史学科の石谷和彦さん



▲ 入学式の光景

クラブ・同好会の紹介



けやき IT を楽しむ会
けやき遊歩クラブ



けやきカラオケクラブ



けやき軽音楽クラブ



けやき朗読倶楽部



「けやき便り」編集クラブ



けやきテニスクラブ



けやきゴルフ同好会

(取材:「けやき便り」編集クラブ)



令和4年度 シニア専修コース 卒業式

3月3日(金)の午前10時から、令和4年度シニア専修コースの卒業式がAVホール(3号館・2階)で執り行われ、大江学長から卒業証書が卒業生一人一人に授与されました。卒業生は、文学歴史学科17名、国際文化学科10名、情報学科10名の計37名でした。



卒業式に際して式辞を述べられる大江学長



祝辞を述べられる齊藤理事長



挨拶を述べられる榎本所長



卒業証書の授与



◁ 卒業式の光景

(写真は生涯学習センターのご協力をいただきました。取材:「けやき便り」編集クラブ)

シニア専修コースによろこそ

令和5年(2023年)度 新入生誌上座談会

これから3年間 ともに楽しく 学びましょう!

《参加者》 吉實 泰子 (文歴) 石谷 和彦 (文歴) 渡辺 勝彦 (国際)
池田 雅行 (国際) 小池 千鶴子 (情報) 小川 祥一 (情報)

「けやき便り」編集クラブでは、新入生の6名に代表で、入学に向けての動機、感想などを、アンケート形式で集約し、「誌上座談会」としてまとめました。

▼入学した動機を教えてください▲

池田 働きながら通える学舎を探していました。年間授業時間の程良さに安心し、学科内容に心惹かれて入学を決意しました。

小池 パソコンの詳しい使い方を知りたいと思うなかで、自分のペースにちょうど合いそうだったので入学しました。

石谷 高卒で働き 63 歳で退職しましたが、人生でやり残した大学教育を受けたくなり通信制の大学に入学しました。6年かけて卒業しましたが、学習するうちに今まで大嫌いだった勉強がとても楽しくなりました。そこで学習意欲継続のために放送大学に入ったのですが、地域情報紙で当コースのことを知り、実際のキャンパスライフも体験してみたいと考えて入学しました。

渡辺 2020年度に入学したのですが、コロナウィルス感染のパンデミックのため、入学中止となり、新たに入学が再開されたので、再挑戦しようと思って、入学しました。

吉實 長い間、家庭と仕事の両立に精一杯で、自分1人の時間を上手に過ごすことができるかどうかわかりませんでした。もう一度、自分を見直し、好きだった歴史を学びたいと思いました。

小川 私は3年前(2020年)、仕事を定年し、第2の人生をスタートし“新しい何か”を始めようと思っていました。しかし、コロナ禍にな

り、3年間引き込もっていました。コロナが改善された本年、園田に入学し、新しい分野に挑戦したいと思います。

▼やりたいこと、挑戦されたいこと▲

吉實 学生時代はあれもこれもと欲ばって、忙しい毎日でしたが、この3年間は新しい知識をゆっくり吸収して、また違った学園生活を楽しんで行きたいと思います。

石谷 今さら役には立ちませんが、履修プログラム受講の資格を取りたいと考えています。これは放送大学でも何種類も取れますので、いっぱい集めてみようと考えています。

小池 普段は阪急電車に乗ることがなかったので、沿線に観光地がたくさんあるのでこの機会に街歩きを楽しみたいと思います。

渡辺 しっかり授業を受けて、もう一度勉強したいと思っています。また、目的がなければなかなか外出しないので、通学することによって、まず足腰をきたえたいと思います。

池田 学ぶことが、刺激的で魅力ある挑戦だと思っています。文化人類学という未知の扉の先に、新しい自分が立っている姿を想像し、学びたいと思います。

小川 新しい時代の中で、第2の人生を生きて行くには、IT、デジタル、Onlineが不可欠なので、この分野を勉強したいと思います。

▼授業についての感想。クラブ・同好会活動などへの興味や希望などについて、学園生活を始めての印象について▲

小池 授業は思っていた通り油断するとすぐについていけなくなるので、まず授業についていけるように復習をさぼらないようにしたいと思います。

小川 情報学科で学んでいますので、何かのコンテンツを発信するスキルを身につけたいと思います。

吉實 以前習った事や聞いたりした事なので、スムーズに頭に入ってくるのがうれしいです。先生の授業は楽しいです。

渡辺 授業は、興味深く楽しく受けています。知的好奇心がとても刺激されています。クラブは編集クラブに入部したいと思っています。

池田 授業が楽しくて、90分間が短く感じます。深く、濃い内容でとても満足しています。講師の方々の脱線話も楽しく拝聴させていただいております。クラブ活動は、テニスクラブに興味があります。

石谷 時間的な制約があるため、同級生やセンター職員の方々・先生方も含めてゆっくりと過ごす時間は取りにくいのですが、色々な方とお付き合いしたいと考えています。クラブ活動等については、現役当時でさえ経験したことのない長時間通学ですので、参加はしたいです。もっと西を拠点としていただければゆとりが出るのかもしれませんが。

▼先輩たちや学校(生涯学習センター)などへの要望について▲

小川 先輩方が学業以外に、クラブ活動などの学生相互の交流に力を入れられていることに、敬意を表します。学業に慣れてくれば、クラブにも興味を向けたいと思います。

渡辺 授業のみで、クラスで話し合うような時間がないので、例えば30分のホームルームのような時間があればいいなと思います。

石谷 神戸市のシルバーカレッジを経験していますが、学科ごとで三学年通した専用の教室があったので、集まりやすかったのですが、ここではクラス員が集まりにくいと感じます。

小池 これから高齢化社会になり、学びたい人も多くなると思うので、遠方に住んでいる人にも、パンフレットなどで普及活動をして欲しいです。

吉實 まだまだそこまでの繋がりがないので、右も左もよく判らないです。

池田 より深く学ぶために、参考テキストを紹介していただければ嬉しく思います。

▼その他感想、意見などございましたら▲

石谷 図書館や食堂など良い環境を与えていただいております。いつまで可能かは分かりませんが、当分の間、関わらせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

吉實 クラブ活動など、なかなかコロナの関係で正常に活動出来ない状態なのでしょうか? 「けやき便り」等で活動状況等を発信していただければうれしいです。

池田 せっかく大学に通えるので、臆することなくそれなりに、学生気分を楽しみたいと思います。

小川 学科以外に、公開講座フランス語を受講します。楽しみにしています。

小池 コロナがあけてきたので、これからいろいろな活動に参加できるのが楽しみです。

編集クラブから

入学早々、新入生の方々にご無理をお願いして、誌上座談会に参加していただきました。座談会からは、新しい学びの世界へ飛び込んだ皆さまの、新鮮で前向きな意気込みが伝わってきます。ありがとうございました。

(まとめ:「けやき便り」編集クラブ)

2022年度 シニア専修コース 卒業生からの メッセージ

友達づくり、それから勉強の3年間

文歴卒・研究生 吉村 正晴

入学して、しばらくは教室で軽く会釈する人はいても、じっくり話せる人はなかなか出来ませんでした。はじめて参加した遊歩クラブが奈良散策で、若草山のふもとで男ふたり持参した弁当を開いて話したのが、園田の最初の友人となりました。春日大社への道を歩きながら何人かの人と他愛のない話をする中で、次の授業の時に話すきっかけになりました。

どちらかというとな性はカタクで女性はフランクでにぎやかにされているのを、うらやましくみていました。チョットした勇氣(たいそうですが)で、友達5人は出来たような。友達づくり、学園生活の楽しさはクラブ活動からはじまりました。

授業は難しかったり、おもしろいと肝心の中身を忘れてしまったりですが、授業がきっかけで初めて読み通せた本がありました。

それはいつも第一巻で投げ出していた瀬戸内寂聴訳の『源氏物語』です。全然面白さがわからなかった『伊勢物語』を高樹のぶ子の小説で読めましたし、三浦佑之訳『古事記』は授業で概要を習って読むとガゼン面白くなりました。お菓子の名前、花や色の名前、神社のいわれでも、気になることをウィキペディアよりこの3冊をちょっと開く方が楽しめるようになりました。3年間通ったおかげです。

春になると、「研修生」の札をつけた店員さんをよく目にするようになりました。新しいブルーのストラップに名札を付けていれば「研修生」みたいな「研究生」と思ってもらって、よろしく願います。

楽しい学校生活をもう一度

国際文化卒・文歴1年 中村 純造

私は今春、国際文化学科を卒業しましたが、もう一度楽しい学校生活を希望し、文学歴史学科に再入学しました。

私は、定年退職後は好きな分野の講座を受講したいと思っていて、シニア講座の検索をしていました。その中で、園田学園シニア専修コースは、学生生活をしながら好きな分野の講座を受講できるとのことで、私の希望と合致し、是非入学したいと強く希望しました。趣味が旅行でしたので、地域の文化を学びたいとして、2018年度国際文化学科に入学しました。

授業の内容は、沖縄、アイヌの歴史文化、タイ、ベトナム等の地域文化、アメリカの歴史文化、西洋史概要等興味深い講義を聴くことができ、とても充実していました。

クラブ活動も活発で、私は遊歩クラブに所属し、近郊のいろいろな名所旧跡を散策させてもらいましたし、カラオケクラブにも参加して、自由に歌うなど楽しく過ごしました。

私の同級生は13人入学し、途中、体調面、家庭の事情等で4人の退学がありましたが、9人が3年(在籍は5年)の履修を無事終え、今春卒業しました。授業を共にし、またそれぞれ好きなクラブで活動しました。クラス単位としても、コロナ禍の時期を含めて、春の桜見物、秋の紅葉巡り、また、大阪の新世界や梅田界限のディープな大阪を巡りました。

ということで、このような楽しい学校生活をもう一度経験したいと思い、文学歴史学科に再入学しました。同級生の皆さん、これから3年間、仲良く、そして共に学び、共に懇親を深めていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

園田学園シニアでの学び 私たちが得たもの

情報学科 卒業生

研究生として参加した5名が、「卒業生からのメッセージ」を記入しました。(五十音順)

<折原千壽子>

自分の時間を有意義に過ごしたいという思いで入学しました。

入学前はWordやExcelを使うことはなかったので、授業に追いつけるのか不安でした。

実際に授業を受けてみると、やはりついていくのが大変でしたが、昼休みや放課後にみなさんと話をするのが楽しみになりました。

先生やみなさんから多くの助けをいただきながら、何とか卒業することができました。

出会えた人々に感謝しています。

<坂元絹子>

最初の入学面接では、WordとExcelを少しだけ作成しただけで入学できたので、不安でした。いつも「大丈夫かな」と思っていました。先生方の指導や周りの皆様の支えで、どうにかこうにか続けていくことができました。

コロナ禍の時は、ZoomでScratchの授業を受講し、楽しく学ぶことができました。学び続けるうちに、内容の奥深さに驚かされました。今では時間があれば楽しく作成しております。

先生方や皆様には感謝の一言です。

<田中洋子>

情報学科に迷いこんだ初めての学年から、ついに最終学年を迎えることができました。しかしながら、コロナ禍による休講は辛いものでした。そんな中で自宅から受講できるオンライン授業は楽しく、意欲を維持し3年生に進級することができて感謝しています。

今後も、オンライン授業を取り入れていただけると、常に学び続けることができます。

ただ、授業に追われる中でクラブ活動に参加

できなかったことは心残りです。



<菅原京子>

入学時には21人いましたが、コロナの影響で3年生になる頃には休校となり、再開授業の2年後には半分の10人に減少しました。

初めは週2回の通学に慣れることから始め、授業後は、家で復習や課題提出をしながら理解を深めました。学習上の悩みは、先生やクラスメイトからアドバイスを得て解決しました。

コロナ禍でも学ぶ姿勢を崩さず、進んで学ぶことの大切さを知り、多くの人と出会って一緒に学べたことは私の人生を豊かにしてくれました。

<村松衣津美>

授業についていくのは覚えるより忘れることが多く大変でしたが、TAの先生や隣の人達に随分助けてもらいながらなんとか卒業できました。

クラブ活動では遊歩、朗読、ITを楽しむ会に参加し、楽しい時間を過ごすことができました。

コロナで休講になってもZoomを使って活動できたのは有意義でした。

また、図書館もたくさん利用させてもらいました。新刊も多く、月5~7冊ぐらい借りていました。絵本も素敵で心癒されました。

令和4年度の卒業生は、大学がコロナの影響で休校となり、卒業まで5年かかりました。

コロナ座談会 ●————● 「けやき便り」編集クラブの場合

園田シニア生はいかにして

コロナ禍を乗り切ったか

5月8日に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に変更になり、形式上は終息に向かうことになったが、ここでコロナ禍は園田シニア生の学生生活にどんな影響を与えたか、またどの様にコロナ禍を乗り切ったかを総括するために座談会を開催した。

とにかく、マスクがない!

司会：皆さんコロナで大変な思いをされたと思いますが、日々の暮らしはどんな感じでした?

研究生1：最初は毎日死者〇人とかテレビで報道され外出するのがこわかった。マスクがなくて毎日薬局に朝5時から並んだ。並んでも買えるとは限らなかったが椅子や膝掛を持って、とにかく並びました。

国際2年：マスクが売っていなくて、不織布のマスクを洗濯して3日間使った。また妻が布のマスクを作ったがゴムが売ってなくて往生しましたよ。

研究生1：あまりのマスク不足に眼帯をマスクの代わりに使う人がいると聞いた。ユーモアなのかそれとも皮肉なのか?どっちだったのでしょうか。

研究生2：私は一人暮らしで特にコロナの時も生活に変化はなかった。マスクも息子が花粉症なので前から備蓄していて、外出自粛でそれほど使わなかったから困らなかった。それは良かったが、去年7月末にコロナになった。3日だけで症状は軽かったけど、保健所に連絡しても一切電話が架からなくて本当に困った。



Zoomでの編集会議

コロナ禍でも良かったこと

司会：この中には今までコロナに罹ったことのある方は17名中6名いますね。我が家も夫婦共に12月末に罹ったので、区役所から血中酸素を測る機械とかダンボール箱一杯にレトルト食品、トイレットペーパーが送られてきて助かりました。そんな話やコロナ禍でも良かったと思えることはありませんか?

研究生3：「けやき便り」の編集会議をZOOMでしたり、電子版にすることによりずっと途絶えることなく発行できたことは良かったですね。

国際2年：ZOOMで会議のほかに飲み会もできた。それはそれで楽しかった。

研究生3：ZOOMはPC環境やマイクの関係で、聞きづらい面があり、目の前にいるように良く見えて聞こえるようにならないと不便。今回、コロナ中に先生方にオンラインで授業をやっていただき有難かったです。専修コースとしては初の試みで、これからはもっと進化していくでしょうね。

コロナ禍でのクラブ活動は?

司会：コロナ中のクラブ活動などはどうしていましたか?

研究生4：軽音楽クラブは、初め校内の練習会場が使えなくて、個人個人が先生について練習してました。(園田)シスターズはオンラインを使ってそれぞれ家で歌ったが全然合わず1回で止めてしまった。しばらくして西宮北口のライ

ブハウスで昼に2時間練習することができました。

研究生5: テニスクラブは「軽音サマーライブ」の時に、「また、皆で集まりたいね」ということになって、尼崎の猪名川公園でテニスができるようになった。

研究生6: カラオケクラブですが、コロナ感染は飲食等の濃厚接触の時に起こるのにカラオケが目の敵にされ、コロナの時はさすがに開催できなかった。何かあったら責任者出てこいと言われると困るから。しかし、手洗いうがいをすることにより、風邪が減ったと思う。コロナの病気より、外出自粛で高齢者が運動できない方が困った事だと思う。

研究生7: ITを楽しむ会は中村さんがずっと自宅からZOOMで配信してくれて勉強したので有難かったです。

研究生8: コロナ禍の前に「よもやま話の会」を立ち上げ、ちょっと落ち着いた時期に塚口の学習館で月2回、いろいろな方のお話が聞けて良かった。もちろん、感染対策を徹底した上で開催しました。2年間大学が休校してもモチベーションが低下せずにスムーズにいけて有難かった。

コロナの時代を上手に生きる

司会: コロナ禍でもクラブ活動などはそれぞれ動いていたのがわかりました。生活はどうでしたか。

研究生9: 私としては何日かに1回買物に行くのが運動で、家にいても“名もなき家事”がたくさんあり暇で困ることはなかった。断捨離もやりかけたがうまくいかなかった。

国際3年: コロナが収まっている時に「Go To トラベル」で安く宮古島、尾瀬、奈良など5回行って良かったです。

司会: コロナ禍を上手に生きられた方もおられるようです。

研究生10: 私はコーヒーが大好きで普段は散歩の時に喫茶店を見つけてお茶するのですが、外

出自粛で出来ないもので、朝、昼、晩と「おうちカフェ」のママになりました。

司会: 暖かい家庭ですね、うらやましい。私は「どっか行ったら」と言われてましたよ。

研究生11: 自宅で過ごす時間が多くなり、友人達と「高齢期の住まいとリスク」という本を作りました。これは高齢者が自宅に一日も長く住み続けるためにはどういう所をチェックしたら良いのか考えたものです。本の作成はZOOMを使い会議して作りました。図書館にあるのでぜひ読んでください。

コロナ禍で思う — “日常” とは?

司会: 初めは何かをしないといけないと思いましたが、ちよつとずつ緩くなってきて、コロナのせいで学んだこともある。家族、親戚の関係とか、学校がない時にどうやって自分の時間を作っていくかとか、消毒は大事やとか思い、それなりに良かったと思いました。

研究生6: 日常とは何か?を考えさせられました。コロナになって手を洗うのも日常になりました。何回も何回も手を洗うのをしたくないと思うのも日常でした。その積み重ねでした。

素晴らしい事、びっくりすることはなかなか毎日起きないですからね。その日常生活が出来る事が有難い。朝、目が醒めることが一番有難い。起きられることがもっと有難い。今日御飯食べられる・・・もうそれだけで最高ですよ。(コロナ禍は)そういう日常を見直すきっかけになったのではないかと、前向きに捉えたいですね。



(編集クラブ座談会より、まとめ・文 濱口祐一)

先生からの
寄稿文

人を憶念する

文化人類学入門(前期)/アジア太平洋文化論(前期) 玉城 毅

何かの拍子に時々思い出す人がいる。こんな人がこの世界に存在していたと思うだけでも嬉しくなり、そんな人に出会えてよかったと思う。

読谷村で調査するならば、地域の歴史に詳しい曾根信一という人がいます。ちょっと変わった人ですけどね。

大学院を出た後に沖縄に戻り、沖縄調査を本格的にやっ払いこうと思っていた頃、そのような人の噂を聞いた。「変わった人」という評価に二の足を踏んで、曾根先生に会ったのは、その存在を知ってから3年ほど経った頃だった。初めて曾根先生に会ったとき、一部の無責任な評価はすぐに吹き飛んだ。人は会ってみるものだ。

曾根先生の家をくぐると、ジャングルのような庭がある。放っておかれて荒れたという感じではなく、よくみると、背の低い草、中くらいの大きさの木々、そして大木といった具合に、幾種類もの植物が生い茂る豊かな庭である。木の葉っぱの間に鐘があり、それを木槌で叩くと、「ハイ」と奥から声が聞えてくる。縁側から家の中に入ると、真っ赤なセーターを着た80代の曾根先生が、飄々とした態度で出迎えてくれた。読谷村の歴史について教えてほしいという当初の目的とは別に、曾根先生に会いたいというだけで、家族でよく遊びに行くようになった。

曾根先生宅には人がよく訪ねてきた。地域史研究者、陶工、学校の先生、昔の教え子(曾根先生は元高校教師)など、客の年齢層も20代から70代までと幅広い。高齢だった曾根先生は、自分では行けないいろんな場所について、訪問

者によく質問した。

また、曾根先生は、「言葉のメッセンジャー」と名乗っていた。釈迦、孔子、ジョン・ミルトン、ゲーテなどの言葉を小さな便箋に書き溜めておられ、それらが、テーブルの上に置かれていて、訪問者に「好きな言葉を持って行きなさい」と言っていた。曾根先生と話していると、自分がどんなことに興味を持っていて、どこに立っているのかが、少しずつはっきりしてくる。

曾根先生は、相手の年齢や職業によって接する態度を変えなかった。これが一部で「変わっている」といわれる理由だと思う。20代の青年に対しても、村長に対しても、子どもに対しても、曾根先生の態度は同じだった。1999年に息子の凜野(りんや)が生まれた数日後、上の娘の麦野(当時7歳)宛てに「10月15日」の一枚の日めくりカレンダーが送られてきた。

むぎのさんおめでとう。これはあなたがおねえさんになったきねん日のこよみです。

また、1歳半になった凜野が、団地のベランダから靴やぞうりを下に落としてしまうという話をすると、その数日後、凜野宛にハガキが届いた。

キミ、三階から投げた物は一階に行くんだという重力の研究をしているんだってね。年に似合わない大したもんだわ。ボクいつもよろけているんだが、もし地球をふみ外したら、空の方へ舞い落ちていくのかなーと考えるんだ。どうだろうナ。二人で共同研究しようよ。ねえキミ。

このように、温かいユーモア溢れる人であったが、自己中心的な発想に対しては毅然として叱る人でもあった。ズボラな性格である私たち夫婦が、「盗られるようなものはないので車にカギはかけてこなかった」というと、「カギは、盗られないためではなくて、どろぼうを生み出さないためにかけるものだ」と強い口調でおっしゃった。相手が誰であっても、叱るべきときには叱るところが、「変わっている」といわれるところだとも思うが、それは叱られる方が悪いのだからしかたがない。

研究上の相談をすると、先生から答えをもらうことはあまりなかったが、問題はよく頂いた。妻も、先生からいっぱい質問を受けていた。

教えてたぼれ (沖縄の古い表現、教えて下さい)

- A JR 山陽線のキョ離と中間の駅の数。
- B 宇治茶発祥の茶畑のある場所。
- C 京東山の泉涌寺にある楊貴妃観音さんは、おひげをはやしていらっしゃるのですか？

曾根先生は、だんだん目が悪くなり、達筆だった字も手が震えて書けなくなった。そんなときでも、娘さんの代筆でハガキを頂いた。私が転職したときも、「名護行きを聞いて、じっくり研究ができるだろうと思って喜んでいました」とハガキを下された。

幸福は人格である。

幸福は表現である。

三木清は『人生論ノート』でこう書いている。曾根先生の存在がこの言葉と重なる。住む場所やお金などの生きるための条件が幸福の十分条件ではなく(必要条件ではあっても)、幸福は生きているその人自身から表出する。

「念願は人格を決定す」という言葉も思い出す。何を願っているかが人格を決める。そして、人格=幸福は、寛容さや温かさとして自ずと外に表われる。なので、その人に触れた者は、そ

れだけで嬉しくなる。幸福は伝染する。

「愛する者のために死んだからその人は幸福なのではなく、幸福だから愛する者のために死ねたのだ」(三木清)。

自分の都合を優先し、自己関心のせめぎあいでの争いの絶えない煩雑なこの世の中で、人間はこんなふうに生きることができる。現に、私の目の前にいた曾根先生はそう生きていた。

2007年11月8日、曾根先生は90歳の生涯を終えられた。ご遺体は琉球大学医学部に献体され、11月10日、「お別れ会」が催された。曾根先生は「おひげ」だけの参加だった。

曾根先生は亡くなくても、先生が多くの人にかけた願いは生きている。だからこそ、曾根先生を思い出すと嬉しくなる。あれから15年経った今でも、人格を憶念するとき、そこから問いかけてくる声が聞こえる。

あなたは何を願って日々生きていますか？そこから外に何が漏れ出ていますか？

「名誉のために研究するなよ」

曾根先生の言葉を思い出す。出会いは過去だけのものではなく、何度も出会い直すことができる。それがうれしい。



◀ 曾根 信一
『読谷山路を行く：
読谷村の旧跡めぐり』
[私家版]、1996年



三木 清『人生論ノート』▶
新潮文庫、1978年

先生から
の寄稿文

歴史との私的交際法

国際地域文化・西洋史概論 山口悟

個人の人生も、長くなればもう歴史です。自らの人生たる個人史も、顧みれば興味深いところが多々あります。歴史を楽しむ一種として、極私的な歴史との付き合い方の例を少し考えてみましょう。

(1) まずは第一級個人史料の日記。昔のいろいろを読みかえしてみると、忘れていたことばかりで、昔このようなことがあったのかと再発見の面白さにあふれています。とはいえ、日記の維持には根気が必要ですから、残念ながらこれまで小生にはできかねることでした。この原稿を機会に一念発起、また始めてみようかな、と“少し”思わないでもないですが。

(2) 昔の住所や通った場所の近辺、訪れた場所などを再訪すると、懐かしさとともに再発見が多々ありますね。最初に住んでいた土地を散策してみて、予想外に小学校まで近かったことに驚いた経験があります。子ども時分には、かなりの距離に思っていたのですが、また、よく遊んだ公園が予想外に小さかったことも認識。子どものころと大人になったいまの視点・視界の違いを感じるのも、面白いですね。もちろん地域自体の今昔の変化をたどるのも、また愉しです。

時を経ての自分自身の変化の発見も、個人史を認識する上で面白いところではないでしょうか。たとえば、

(3) 食物の好悪など種々の知覚変化。年を取ってくると、個人的には、なぜかリンゴやイチゴがよりいっそう好きになりました。これはいまの野菜・果物自体が品種改良等で美味しくなったことも影響しているのかも。逆に子ども時分に好きだったものが、いまではそうでもないこともありますね。

縁が切れていたものとの和解や、縁遠かった

ものが時を経て身近にもどってくることもありますね。若かりし頃に名古屋で食した「味噌カツ」が当時はいまいちに感じたため長らく食べていなかったのですが、20年以上してたまたま食べてみると、案外と美味しかったり。味覚の変化か、あるいはこれもお店の違いが大きいのかもかもしれませんが。

(4) 興味・関心の変遷。時を経て、これまであまり興味のなかった物事に心引かれるようにもなりました。歴史に関しても、種々の必要から専門外の分野や時代等に手を付けるときが多々あり、案外と未知の分野の面白さに触れることがあります。たとえばロシアや南米の歴史、地質年代や宗教の分野などなどでしょうか。

また、予想外の興味・関心の再出現や、それに関連しての再展開もありますね。まさに予想外のパンデミックに遭難して、死ぬまでには読もうと思いつつ積読していたカミュの『ペスト』が優先順位急上昇で読んでみたところ面白く、ついでに『異邦人』も読むことに。さらにカミュからの派生で、同じく購入後30年ほど放置していたサルトルの『嘔吐』まで読了。数十年の放置期間を思えば、パンデミックという現実の歴史展開に影響されての、電撃的な展開でした。これからどんなものに興味引かれ、再発見することになるのやら。

自分の歴史を重ねるにしたがって、自身に変化がいろいろと生じます。それを顧みて驚くのも、不思議に思うのも、面白いことです。身近過ぎて気づかないことも多い自分の経年変化に思いをいたすのも、歴史と接する楽しみの一つではないでしょうか。

ソ連崩壊やウクライナ戦争、さらにはAIの急激な発達など、生を重ねると予想もできなかった出来事に多々出くわします。これからどんなことが起こるのか予想もつきません。自分の生活や人生でもまたしかり。好奇心をもって長生きして、自分自身の生活やそれを取り巻く社会・世界の変化、それら歴史の展開を体験し、行く末をみつめましょう。日々生成される歴史と付き合う楽しみは尽きません。

にんげん探訪

昨日から学んで、今日を生きる

研究生の峠田桂子さんにインタビュー

◆戦中・戦後を生きて

私は、農家の「ボンボン」の父と無声映画に出演するような活発な母の間に、大阪市旭区で生まれました。戦中・戦後に父の転勤もあり小中学校を8回転校しました。

広島市内で国民学校(小学校)に入学、1年生の時はずでに戦時中で、庭は防空壕を父が造り、家中の金属類や窓の格子に至るまで供出しました。茶殻は軍馬の食料として学校に持って行き、軍の慰問袋に入れる絵や手紙を言われるままに書き提出していました。街中では「千人針」といって無事である様にと願を込めた文字を結び玉で女性方が1人1個作っていました。

2年生の終り、岡山へ転勤で同じように防空壕が玄関先の庭に造られました。この頃は度々空襲警報が発令されるようになり、壕に避難するようになりました。母は、病弱となり入院もあり、一時は鳥取から祖母が来てくれましたが、父は長男を会社に連れて行き、弟のお守は私でした。ある時3歳の弟をおんぶし、ねんねこ(綿入り羽織物)を着ていて、土手から小さな川の浅瀬に仰向けに落ち、起きられなくて難儀をしました。ある時は学校まで付いてきて教室の後ろにいたことがありました。

3年生の終りに両親の里鳥取に疎開した時は家財の大半は岡山駅で焼失、兄弟はバラバラに預けられました。ある日「今日大変な放送があるけん」と向かいのお婆さんの言葉が、戦争に負けたと言うことでした。

父は復員後会社に復職、関西の住宅探しで紹介されたのは、鳴尾村(西宮市)に兵隊さんの宿舎であった集合住宅で階段の下まで住居とされていた



穏やかな日々

ました。共同炊事場で、燃料は練炭も配給でした。鳴尾浜で爆弾跡の残る工場で見草の枯れ木を燃料とし、都会には野菜はないので空き地にサツマイモ、豆、薬物を作りました。ご近所の小母さん方と一緒に野草を摘み食べられるものはなんでも摘みました。

◆昨日から学んで、今日を生きる

戦争や原爆で周りの人が亡くなり、食べるものが不足する悲惨な時代を確かめようと、戦中を過ごした広島の自宅跡や入学した竹屋国民学校を訪れました。宿直をしておられた女性の先生が被爆の治療を受けられているという新聞記事があったので今も保管しています。

高槻市のある戦争遺跡「タチソ(陸軍の暗号、高槻地下倉庫の略)」も訪れました。ここは国内



最大級の軍事目的の地下壕で、危険なトンネル工事に約3500人の朝鮮人労働者が従事し、

多くの犠牲者が出た場所だと知りました。私たちの活動を載せた当時の新聞には「とにかく若い人に事実を伝えていかないと。諦めないことが大切では」と、私の言葉が載っています。アインシュタインの言葉ですが、昨日から学んで、今日を生きてほしいです。

写真:「母と私」情報学科課題研究「着色」で作成
新聞切り抜き:戦争遺跡「タチソ」を訪ねた記事

インタビューの後半は峠田さんの仕事と福祉やボランティア活動のお話でしたが、後半部分は割愛し、前半部分を掲載しています。

(インタビュー 編集クラブ、

まとめ・文 河田かつのぶ)

人生とは心のあり方だ

映画「エンパイア・オブ・ライト」

文学歴史学科3年 田中 祐二



映画館を舞台にしたしみじみと深く感じ入る映画を観ました。「エンパイア・オブ・ライト」(2022年)というイギリス・アメリカ合作映画です。

鑑賞前から大きな期待を寄せました。何しろ監督が「アメリカン・ビューティ」(1999年・アカデミー賞作品賞ほか5部門受賞)、「1917 命をかけた伝令」(2019年・アカデミー賞撮影賞ほか3部門受賞)の名匠サム・メンデスで、「女王陛下のお気に入り」(2018年)でアカデミー賞主演女優賞を受賞した演技賞ノミネート常連女優のオリビア・コールマンを主演に迎えて描いたヒューマンドラマだからです。サム・メンデス監督が手がけた映画はとても多彩で、シニカルなコメディ、夫婦の愛憎ドラマ、007のようなアクション大作、戦争映画などがありますが、しばしば家族の絆や崩壊をテーマにしており、映像に徹底的にこだわる作家というイメージを持っています。

港街のリゾート地に隣接する映画館。営業開始前のため静寂。一人の女性はその建物に入ってきて温かい電気がつく。ポップコーンの売店の灯りが照らされ、スクリーンもライトが点灯します。その女性は事務所で灰皿を片付け、ストーブをつける。スタッフが次々と出勤し、話しながらの清掃・・・この開巻の描写に思わず引き込まれました。なぜならここ数年のコロナ禍の中、“映画館”が私の居場所であり、心の拠り所だったからです！



1980年代のイギリスの映画館を舞台に、心に闇を抱

えながら厳しい現実を過ごす人々が最後に生きる希望を見出す姿をととも見事に描いた作品です。当時のイギリスは失業率の悪化による波乱と混迷の時代であったという背景が色濃く映し出されます。オリビア・コールマン扮する主人公は、メンタルに問題を抱えているのですが、新しいスタッフの黒人男性とのロマンスが生まれます。しかしこの男性にも黒人差別が重く押し掛かります。そして両者の傷ついた心が回復していく過程が静かに描かれていきます。まず何よりオリビア・コールマンはさすがの貫録で抜群の演技力と圧倒的な存在感です。また映像が非常に綺麗なため、ドラマティックな出来事や物語が展開されることもなく地味な場面が多いにもかかわらず、とてもゴージャスな映画に感じます。ストーリーも紆余曲折はありますが、最後は後味がいい終わり方で素晴らしいと感じると共に、人生・生き方を考えさせてくれる映画でもありました。イギリスが不況によって不安に包まれていた1980年代、映画の舞台である「エンパイア・シネマ」という映画館は、そんな暗い時代から逃避できるような“特別な場所”のように描かれているので、コロナ禍での私の逃避場所と重なり、感慨に浸りました。

印象的な場面としては、最後に主人公が観る映画が「チャンス」(1979年)という、天真爛漫な庭師を通じ社会を風刺したアメリカのコメディ映画で、スクリーンをみつめ感動している主人公の何とも言えない表情がとても素敵でした。この映画での「人生とは心のあり方だ」というセリフのフレーズが、とても心に残りました。

(写真:『エンパイア・オブ・ライト』公式サイト)

新しいお札の顔

渋沢栄一について

研究生 馬場 正子



2024年度から登場するあたらしいお札の顔は渋沢栄一である。一万円札の顔だ。渋沢栄一の生家は、農家だが、畑作の他に養蚕や藍を作っていた。埼玉県深谷市の血洗島とよばれるところで、船で利根川から、江戸に出ることができた。

そして、故郷からでて、吹き荒れる幕末の風に吹かれ、倒幕運動にも加わった。放火事件に加わろうとしたが、寸前で思いとどまり、最後の将軍慶喜に仕えることになった。そして、静岡で商才を発揮し静岡の町は大いにぎわったという。さらに洋行に会計係として使節団に加わりパリにでかけた。



当時、フランスはサンシモン経済の影響を受けにぎわっていた。民間の資本で工事費用をまかない工事を進めていた。民間資本で動くことに驚きしっかり仕組みを学ぼうとしたが、徳川幕府崩壊の報を受け、帰国しなければならなかった。



帰国して今度は新政府から声がかかった。新しく政府で改正掛を作った。時代は廃藩置県のもと、藩札廃止、国立銀行を新しく作った。これにより、資本を集め、新しく会社をつくれるようになった。また、郵便制度や鉄道、海運の整備を考えた。

しかし、政府は軍備を優先し、新制度はうまく機能しなかった。栄一は大蔵省を辞し民間人として銀行設立や株式取引所、手形交換所、興信所など開設した。そしてそれまでなかった会

社・輸送に関わる企業を起こそうとした。特に出版事業を重視した。言論活動には欠かせず、日本国中に近代的な考えを広めるためには必要であった。また、輸送、特に鉄道事業・洋紙事業の育成は人・物の移動にかかせないものであった。急速な近代化が進められた。生涯に500を超える企業を育成したといわれる。しかし、直接事業に関わらなかった。日本女子大や一橋大学の設立に関与した。

もう一つ力をいれたのは高等教育（小学校以上）と社会福祉事業であった。これは終生続けられた。東京養育院や結核予防協会などの設立にも関わった。



日米関係の改善のために飛鳥山に土地を買い、別荘を建てて、ここで賓客をもてなした。グランド将軍（後に大統領）、詩人タゴールなど世界の要人と会い、日本の賓客とも多数会っている。

晩年、朝には一般の人とも毎日会って陳情を聞いていたという。渋沢栄一は1931年91歳で亡くなったが多くの人々が葬列の沿道に駆け付け別れを惜しんだという。



(参考文献)

朝日ジュニアシリーズ

『渋沢栄一』甘夏柑子著（朝日新聞出版）

『大河ドラマ 青天を衝け 渋沢栄一のすべて』（宝島社）

『青天を衝け 渋沢栄一とその時代』（NHK出版）

漢詩を学ぶ(その二)

文学歴史学科3年 松原 光治

■ はじめに

私は来年、満八十歳を迎える。自分でも信じられないほどの高齢だ。この歳になるとどうしても、老いや別れ、来し方を振り返った詩などに心惹かれるのは致し方のないことだろう。その二では、このような詩を学ぶことにしたい。

■ 若者が詠う老い

初唐の詩人 劉希夷りゅうきいさんの詩「白頭はくとうを悲かなしむ翁おきなに代かわる」¹⁾と題する二十六句からなる七言古詩がある。日本でも大変有名な詩だ。桜の花の季節になると、一度や二度は、必ずと言っていいほど、この詩の数句が引用される。

洛陽 城東とうり 桃李とうりの花

飛び来たり 飛び去りて 誰が家にか落つる

...

已すでに見る松柏しょうはくの摧くだかれて薪たきぎと為なるを
更にそくてん聞く桑田そうてん変じて海となるを

...

年年歳歳 花 相似たり

歳歳年年 人 同じからず

...

此の翁 白頭まこと 真まことに憐あはれお可べし

伊これ昔 紅顔の美少年

...

宛えんてん転がたる蛾眉がび 能く幾時ぞ

須しゅゆ臾ゆにして 鶴かくはつ髪 乱れて糸の如し

...

私も白髪頭になってしまったことを悲しんでいたもので、初めてこの詩に出会ったとき、まるで自分に代わって読んでくれたみたいだと思った。けれども、何度も繰り返し読んでいるうちに、感想が変わってきたのだ。白髪になってし

まったことを悲しんでいるけれども、若い人に憐れんでほしいなんて思っていない。今を盛りと美しく咲き誇っている若い人を見たときに、自分にもそんなときがあったと羨ましくはあるけれど、「すぐに白髪頭になるんやで」と嫌味を言ったりはしない。この詩人は、二十代でこの詩をつくったそうだ。二十代でこれだけの詩が詠めるというのは天才には違いない。この詩の出来栄えがあまりにも素晴らしいので、この詩を譲るように言われたのだが、それを拒否したために若くして殺されてしまったという物騒な話も伝わっている。この詩は、頭の良い若い人が頭の中で作った「老い」の詩だ。この詩人が長生きしていたら、また違った老いを詠んでいたのではないだろうか。

■ 精衛

精衛とは、中国の神話の中に出てくる鳥で、ある王女が海で遊んでいて溺れ死んでしまい、死後、鳥になって、再び溺れ死ぬ人が出ないように、海を埋めてしまおうといつも小石や木の枝を銜えて運んでいるという。何人かの詩人がこの鳥を詩に詠んでいるのだが、明末清初の文人顧炎武こえんぶさんのもの¹⁾を読んでみる。

万事 不平有り

爾なんじ 何ぞ空しく自ら苦しむ

長く一寸の身を將て

木くわを銜しゅうこえ 終古しゅうこに到るか

我願わくは 東海を平らかにせんことを

...

君見ずや 西山に木を銜うる衆鳥多く

鵲かささぎ 来たり燕みずからす去れども 自ら窠を成すのみ

解説によると、「他人のために自分を犠牲にし

ている精衛と、自分の巣をつくることしか考えないかささぎや燕を対比(中略)し、対清抵抗運動を続ける人物と、自分の利益のみを考えてさっさと清朝に仕えた人物を象徴」しているとのこと。この詩の作者自身が異民族による征服王朝である清に対して抵抗運動を続け、生涯清朝には仕えなかった人とのことだから、このような解釈で間違いないのだろう。けれども私は、少しだけ違った感想を付け加えたいと思う。私は、精衛の話を知ったときに、十年ほど前に読んだ『ハチドリの一とせずく—いま、私にできること』²⁾を思い出したのだ。南アメリカの先住民に伝わるお話だそう。 「山火事が起きて森が燃えていた時、多くの動物が逃げ出していたのですが、一羽のハチドリだけが嘴に水を含んで、行ったり来たり、火の上に水のしずくを落としていました。そんなことをしていったい何になるんだ。私は、私にできることをしているだけ」このお話が載っている冊子を作るとき、挿絵を担当したカナダの少数民族出身のアーティストがこう言ったそう。 「怒りや憎しみに身を任せたり、他人を批判したりしている暇があったら、自分の出来ることを淡々とやっていこうよ。クリキンディ(ハチドリの名前)はそう言っているような気がするんだ」もしかしたら、精衛もそのように言っているかもしれない。

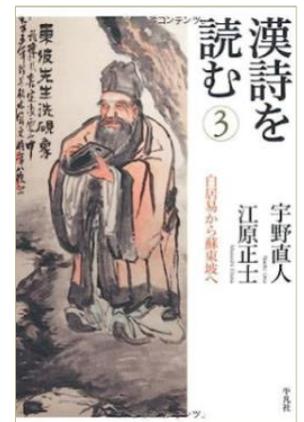
■ 九十歳に向かって

精衛の詩をつくった顧炎武さんと同時代、ほぼ同じような生き方を貫いた詩人に黄宗羲さんがいる。ところで漢詩の場合、“詩人”といっても日本語で言う“詩人”とイメージがまるで違う。弱弱しい青白い文学青年のイメージは全くない。武装抵抗運動をした人や、戦場で大軍を指揮した将軍や参謀、今の首相や大統領に相当するような大政治家などが沢山のきれいな漢詩を残しているのだ。この人の場合は、対清抵抗運動の後、教育活動に専念し、“中国のルソー”と呼ばれているそう。この人の詩に、除夕(大

晦日の夜の意)¹⁾という七言律詩がある。

びようこつ しょう 病骨 牀を 支へて 五更に 耐ふ
 春来て 山鳥冷やかに 声を 同じうす
 ……
 じゅうがく へいぜい むな 十岳 平生 虚しく 夢想し
 りくけい 六経の注脚 未だ ぶんめい 分明ならず
 明朝九十 方に 帙を開き
 老眼 還た 思ふ、短檠に 傍はん ことを

七十歳代最後の大晦日の夜に、病んだ身を寝台に横たえながら、明日からは新春だ。山の鳥たちもさわやかに声をそろえている。・・・そして自分も九十歳に一步近づく年齢になる。今こそは書物を開き、老いた目であっても灯のそばで読書に励むことを思い続けようと決意を表明しているのだ。なんと力強い、勇気づけられる詩ではないか。私だって負けてはいられない。



★ 参考資料 ★

- 1) 江原正士、宇野直人『漢詩を読む①、③』(平凡社)
- 2) 辻信一監修『ハチドリの一とせずく
いま、私にできること』(光文社)



無を祀る

屋根に棲む神々

研究生 井上 聖明

前号で四国遍路を始めたと言いましたが、ほぼ半年経った今、やっと半分ほどの40寺が終わったところです。気の向いたときに出掛けていますので、いつ頃終わるかわかりませんが、皆様方におかれましては、日々充実の学園生活を楽しまれていることと思います。

私は、四国遍路以前にも西国三十三所や坂東三十三所なども巡ったこともあり、お寺の持つ雰囲気がとても好きです。そして、お寺では本堂のご本尊の他にも、入口の山門には左右に仁王像、手や口を清める手水舎、気持ちを静める鐘楼、それに講堂や経堂、など多くの建物が配置されています。

そこで、今回はその建物の屋根にいるものにちょっと目を向けてみましょう。四国遍路でもよく目についたものに「鯨」「獅子」「鳳凰」「鬼」「龍」があります、なぜこのようなものがお寺の屋根にいるのでしょうか。そのいわれ(通説)を紐解くとこうなります。

鯨：胴体は魚で頭は龍または虎、尾ひれは空を向き背中には幾重もの鋭いとげを持っているという想像上の動物。大棟の両端に取付け建物が火事の際には水を噴き出して火を消すという。



獅子：ライオンと似た想像上の動物で、災難を避けて福を得られる、大きな口で火を消す火除けの縁起物として屋根に飾られ、阿と吽がある。



鳳凰：想像上の瑞鳥(めでたい鳥)で天下の安定をもたらし、風の神ともされている



鬼：もともとは人に災いをもたらす、見えない、隠れたもの「穢」(おに)のことだが、日本では善鬼だとされ、鬼瓦は幸せをもたらせるものとされている。



龍：想像上の動物で、水中または地中にすみ、時には空中を飛行し、雲や雨を起こすといわれる。



日本では特に水の神様としてあがめられる一方で風水害や疫病から守ってくれるとされている。

さあどうでしょう、古くは奈良の高松塚古墳やキトラ古墳の壁画にも描かれている「四神」青龍・朱雀・白虎・玄武などは言うまでもなく、私達には、本来はいないもの(想像上の動物)にさまざまな自然災害や災厄を封じてもらうべくお祀りする、いわゆる「神頼みで一安心」のところが根付いているのです。

いつ来るかわからない大地震、年毎に大型化する台風や水害、それにコロナウイルスのことなど不安の尽きない日々、あらためて屋根に棲む神々様に無事をお願いしておきましょうか。

四番目の故郷 スイス・ジュネーブ

国際文化学科1年 林 富美



生まれ育った大阪が一つ目の故郷、26歳で結婚してから住み続けてきた神戸が2番目の故郷、20歳から2年半住んでいたオランダのハーグが3番目の故郷、そして2016年から年に2-3回長期滞在していたスイスのジュネーブが私にとっての4番目の故郷です。

長い間、スイスの検査会社で働いていました。神戸から横浜へ転勤になり、海外出張中やスイス本社から横浜へ出張で来た人達と友人になり、退職後もメールでのやり取りが続いていました。7年前にシルバーカレッジ音楽文化コースを卒業し、級友達と卒業旅行でウイーンへ行った際に級友達とは別行動を取って、体を壊していたというスイスの友人に会いに2日間ジュネーブへ行ったのが始まりです。レマン湖で有名ですが、その水は本当に綺麗です。何年もかけて山の中をろ過されながら流れてきた水だからでしょうね。チャップリンやオードリーヘップバーン等のセレブが数多く終の棲家として暮らしたのがレマン湖のほとりのジュネーブやモントレ一等の町々です。

ジュネーブはでべそのように周囲をフランスに囲まれている町です。ですからジュネーブではフランス語が話されています。九州と同じぐらいの広さのスイスですが公用語は4種類あります。ドイツ語(65%)・フランス語(23%)・イタリア語(10%)・ロマンシュ語(0.5%)だそうです。同じスイス人でも言葉が通じないのです。国民全員が同じテレビの番組を見るという事ありません。小さな県のようなのが集まってスイス連邦になっています。ですから、其々の地域に国旗の様な旗があります。英語は若い人達や国際機関やネスレの様な国際的な企業に勤めている人達は話せますが、そういった仕事でない人や年配の方は話せない人が多いです。2018年9月に4日間のバスツア



ーでイタリアへ行きましたが、全員年配の参加者で英語の出来た人はネスレを退職したお一人だけでした。添乗員は勿論フランス語で話していましたのでフランス語が全く分からない私は友人に説明してもらっていました。でも、皆さんとは朝食の時の「ボンジュール」とアイコンタクトで気持ちの上では通じ合っていました。旅行が終わって順番にバスを降りて行く時に皆さんが友人には挨拶はしないのに私に挨拶してしてくれたのを友人がびっくりしていたのもいい思い出です。

去年2022年6月から8月にかけて2ヶ月弱滞在していましたが、友人は私より10才若いけれど、今は外出があまり出来なくて車も手放してしまっていました。今までは友人が買い物や色々な所へ車で連れて行って来ていたのに、それが出来なくて初めて滞在中に公共交通(バス・トラム・レマン湖の渡し船)のパスを買って毎日一人で出歩きました。英語でのガイドの日帰りツアーにも3回行きました。その内の一つにフランスのアネシーというとても綺麗な町へ行きました。ジュネーブからバスで40分程の距離で昔はジュネーブの一部だったとか。ジュネーブにはプロテスタントの教会だけでカトリック

の教会が無くてカトリック教徒が移り住んだとか。

そんな話を聞くにつれ、歴史や宗教の事などももっと知りたいと思っているこの頃です。去年12月21日から3ヶ月の予定でジュネーブへ行きましたが歯の具合が悪くなり3週間で帰ってきました。そして、もう長いフライトは無理だと気づき、ジュネーブへは行かない事に決めて、園田に入学した次第です。

大好きなジュネーブ、また行きたい、でも、もう行けない。

28年前

過去を振り返ってみて

研究生 池田 正子

この年、忘れられない二つの出来事が。一つはもちろん未曾有の「阪神淡路大震災」もう一つは個人的な事でこの年の12月スキークラブが結成された事。六甲山に集合ということで、車に板を積み込み、道に迷いながらも何とか到着。今、思い出しても昨日のよう。慌ただしさ

の中簡単に自己紹介、そして発会式。それぞれの技量の確認を終え、年明け早々



長野県「野沢温泉村」への決行。当時、「シュプール号」というスキー専用の列車が夜に大阪駅から出ていて、朝「黒姫高原駅」に到着。終着は長野駅。降り損ねて長野まで行った人も（朝早い、眠たい、そして長野までと勘違い）そこからバスで野沢温泉村に向かう。

ホテルに着き、準備が出来次第、ゲレンデに向かう、何とそこには、野沢温泉村役場のスタッフ、長野テレビ、信濃毎日新聞社、そして、



野沢温泉村のシニアの方々、大勢の人達の出迎えが、び

っくり。満面の笑みと、拍手で迎えられ、感激でした。大変な思いをしたであろうに、こうやって野沢に来てくれた、そして、私たちの生の

声を聞きたかった？根ほり葉ほりの取材を受ける。未だに仮住まい、そして、水道、電気、ガスもまだという人も、みんなそれぞれ状況が違う。ただ私自身は幸いにも電気も、水も全く不自由なく使え、ただガスだけは長い間使えなかった。幸運と言えるかも。その日の夕方テレビで私たちの事がニュースに。そして新聞にも。温泉村のシニアの方々の気遣いと思いやりに1週間があつという間に、次回の日程を決め帰阪。大阪倶楽部という所で、(関西財界人の集まる所らしい?) 打ち合わせというか会合が、国内だけではなく、海外への遠征もという話に、12月、長野はまだ雪が少ない、という事で、シーズン初めは北海道から～ということでニセコ、富良野と毎年このパターン。その合間に山形、岩手、そして3月。初の海外遠征はニュージーランド。が、不評で次回からはカナダに急遽変更。

最初は whistler (ウイスラー)

&Blackcomb(ブラッコム)だけだったので、二度目の時は、バンフーまで足を延ばすことに、ウイスラーと違ってバンフーは相当寒いよ～と、カナダの経験者が、私自身は以前から、「志賀高原、八方」等に知人達と毎年行ってたし、寒いのはあまり気にならないけど、なんせバンフーは初めてで、ちょっと心配。



関空から、バンクーバー経由、カルガリー空港で迎いのバスで移動、車窓から見る、氷河に削られた荒々しい山肌を目にし、カナダにきた実感が。移動に丸1日費やし、やっとバンフースプリングスホテルに。朝7時朝食、ホテルから8時50出発のバスでレークルイーズゲレンデに到着、ホテルから乗る人の多さに、みんなどこの国から来てるん？天候が目まぐるしく変わり気温も低い。

翌日はサンシャインビレッジ、初めてTバーというものに、どんなものかというT字型の棒をロープでくくる？縛ってる？説明するのが難しいけど(氷河なのでリフトの建設が出来ない所がある)、立ったままロープをにぎって引っ張られていく。棒を(すりこぎ棒を少し太くしたような物)お尻に当て立った状態でロープを掴み、板は雪面に着けたまま。椅子のないリフトかな？滑りながら頂上に行ける楽ちんな乗り物(乗り物って言えるのか?)。慣れてしまえばなんてことないけど、勝手に分からず、リフトに乗る感覚で座ろうとすると失敗、腰を落とした瞬間、ロープが伸びてきて、立とうとしがみつけばする程ズルズルロープが伸びてきて、係員の「スタンドアップ、スタンドアップ」の絶叫が。分かってる！けど立てない。頭が真っ白「アウト」と言われ列外に。逃げたい。

私の後ろの人は余裕たっぷり。その人をじっくり見て、もう絶対失敗出来ない、恥ずかしい！みっともない格好に心臓がバクバク、ロープを掴み、やっと出来た！！鬼のような顔で叫んでた彼「グー！」とにっこり。同時に凄い拍手が、え?!見渡すと、Tバーを利用する人達が(2,30人位?)手袋まで外し、白い歯が見える程の笑顔で、慌ててストックとロープを右手に持ち、左手を振り回して、精いっぱい有り難うのサイン。失敗して、恥ずかしかったのに、凄い感激～。

ホテルに帰り、仲間にロビーで呼び止められ、Tバーの失敗の事を言われ、え！見てた？あの拍手の中に居たと、絶対ビデオに撮られてる筈～、Tバーに限らずリフトだったり、ゲレンデでだったり諸々をテープに収めて販売してる？とか、挙句、わざとじゃない？って言われ、そんな余裕なんかどこに。つまり、それほど失敗してる人が多い？

写真は自称セミプ



ロのカメラ大好きな仲間が撮ってくれた。又、カナダの標識に書かれてる言葉が面白い。日本では「立ち入り禁止」の看板だけけど、カナダでは「禁止区域、入った場合、全て自己責任」こんな文字が。良く分からないけど、事故にあった場合すべての費用を個人で負担するという事なのか。

行程表通りこの後、カルガリー空港から、約30分のフライトでバンクーバーへ、バンクーバーのダウンタウンで1時間ほどの休憩、此处から約2時間半のドライブ、ハイウエーをひた走り、太平洋を左に見ながら夕刻「シャトーウイスラーホテル」に到着。翌日、午前中はブラッコム、午後はウイスラーを。補足すると、ブラッコム山とウイスラー山をリフト、ゴンドラ(ロープウェイだったか)で行き来でき、この二つ



の山がゲレンデになっている。又、ウイスラービレッジはタクシーを呼べない、というか、入れない。

写真の通り、道路の真ん中がこんな風に。予約したレストランにも徒歩で、夜でも結構人が多い。なんせ歩行者天国なのでみんなのんびり、ゆったり散策。私たちも、ロブスターを食べるため予約したレストランまで10分程歩く。夜とは思えないほど、明るく照明の煌びやかさはメルヘンの世界。ずっと居たい場所。後期高齢者どころか、末期高齢者の私、叶うはずもないが、今一度この地に立ちたい！

有吉文学の魅力と映画化作品

『非色』

文学歴史学科3年 田中 祐二



(有吉佐和子)

有吉佐和子の小説でとても印象に残り、忘れられない作品が『非色』です。戦後黒人兵と結婚し、幼い子連れニューヨークに渡った日本人女性が人種差別と偏見にあいながらも、逞しく生きていく姿を通して、アメリカの人種問題と人権を見事に描き切った傑作です。この小説には有吉佐和子が米国留学した時の経験が生かされているそうです。公民権運動が続くアメリカの社会をその目に焼き付けたのでしょう。初版は1964年ですが、差別用語がかなり散りばめられているせいか一時廃刊になるも2020年に復刊されました。

戦後のアメリカにおいて日本人が直面した人種差別についての小説はあまり記憶になかったので、まず切り口が斬新だと思いました。そして、小説の王道のようながっしりした文

体、主人公の内面描写に力があり、卓越した心理描写のせいか深く重いテーマにもかかわらずどんどん読み進めることが出来ました。

とにかく主人公の日本人女性“笑子(えみこ)”の逞しさ、強さに圧倒されました。そして最後に差別の根源は「非色」(色に非ず)であることに気づいた笑子は、自分は日本人(黄色人種)で低俗なニグロとは違うと思っていた気持ちを捨て、アメリカという国でニグロの妻として母として生きていく決心をする描写が圧巻です。本当の差別は「肌の色」ではなく「階級」であることに気づくことで、失望ではなく、むしろ希望を持つわけです。



読んでいてとても心に残った箇所が二つありました。ひとつはワシントンの桜を象徴的に描いているところです。祖国日本の淡く薄い美しさから、濃密な油絵のような花に化した姿の桜を見た笑子は、自分も日本人からニグロに変質したことを悟ります。もうひとつは自分をニグロと言い切った笑子が、7年間も暮らしていたにもかかわらず、住んでいたハーレムと働いていた日本料理店しか知らないことが分かり、明日はエンパイア・ステイト・ビルへ上がってみよう決心するところです。下界を見たとき笑子はどう思うか、という想像を作者は読者に委ねます。この度の読了後、『非色』は何十年も前の時代の本なのに全く色あせていない素晴らしい小説だと改めて思いました。

有吉佐和子の小説の映画化作品ですが、調べたところ12本もありました。名作が結構多いのは、やはり原作のお陰でしょうか。

私が個人的に好きな映画は次の3作品です。

① 華岡青洲の妻 (1967年)

(出演：市川雷蔵、高峰秀子、若尾文子)

世界で初めて麻酔を使った手術を成功させた華岡青洲と、彼の妻と母の確執を描いた作品です。世間体のために全身麻酔の人体実験に妻と母が競い合う凄まじさに圧倒され、鑑賞後は余韻がなかなか抜けませんでした。



②紀ノ川 (1966年) (出演: 司葉子、岩下志麻)



明治・大正・昭和と三つの時代を生きた女性を、紀ノ川の流れのように描いた大河ドラマです。まず冒頭の船による嫁入りのシーンがとても美しく息を呑みました。3時間近い上映時間にも関わらず鑑賞中の充実感は比類なきものがありました。

③香華 (1964年) (出演: 岡田茉莉子、加藤剛)

母と娘の波乱に富んだ人生を描いた文芸大作です。第一部と第二部を合わせ3時間20分という長編ですが、観ていて全くダレることがなく、さすがは木下恵介監督です。大正から昭和の激動すぎる時代を生き抜くヒロインの姿に胸が熱くなりました。

有吉佐和子の魅力は、花柳界・古典芸能の世界、社会派問題作、近・現代女性の一生もの、歴史題材ものなど様々な世界のストーリーが楽しめるところではないでしょうか。また女性ならではの慎ましい文体も特徴的と言えます。



『非色』に描かれている差別問題は21世紀の今も根強く存在する難題です。そう言えば『恍惚の人』(1972年)における老人介護問題、『複合汚染』(1975年)における環境問題・・・。

有吉佐和子が提起する問題は未だに一つも解決されていません。改めてその先見の明に驚いた次第です。

◆映画のポスターと画像の引用

①<https://raizofan.net/link4/movie8/seishu.htm>

②<https://movies.shochiku.co.jp/100th/kinokawa/>

③<https://muuseo.com/mirairuka/items/7205>

有吉佐和子 <https://entertainment-topics.jp/2491>

文学歴史学科

新入生歓迎会を開催

文学歴史学科3年 南畑 早苗

2023年1月26日、阪急塚口駅の近くにあるステーキハウスで新入生歓迎会を開催しました。2022年に園田学園女子大学シニア専修コース文学歴史学科に入学された11名と、2年生6名、3年生4名、研究生1名の22人が参加しました。

本来は2020年4月に入学されている方たちですが、コロナ禍で2年間も入学を延期されておられました。晴れて2022年4月に新入生として入学されました。2022年もコロナ禍で規制があり歓迎会も延期していましたが、やっと歓迎会を開くことができました。

大学内ではマスク着用や会合等の規制があるため2022年4月に入学された方がどなたであるかよくわかりませんでした。食事後の自己紹介で、個性ある新入生の方々を知ることができました。遅くなりましたが「ようこそ!園田学園女子大学シニア専修コースへ!!」です。

自己紹介では、個性的な方が多く「私は介護のデイサービス施設を運営しています。人との出会いが楽しみです」、「歴史を専門に学べるコースを探し、入学を2年間待ちました」、「クラブ活動が楽しみ!」等々、前向きに大学生活を楽しみにされていました。

自己紹介後はそれぞれのテーブル席を移動して個人で交流を図りました。和気あいあいと談笑して、2時間の予定はあっという間に過ぎてしまいました。是非またこのような懇親会を積極的に行っていきたいと感じました。



「文化人類学入門(後期)」

受講生が民博見学

国際文化学科2年 濱口 祐一

2023年1月30日、前川愛先生の文化人類学入門(後期)の校外授業で吹田市にある国立民族学博物館を見学しました。その日が最終授業で国際文化学科1年を中心に13名の受講生が参加しました。館内はととても広く、1日かけても回れないくらいの広さですが、前川先生がご専門のモンゴル、中央アジアのゾーンの展示を先生の解説を聴きながら見て回りました。



一番印象的だったのはモンゴル遊牧民のテント(ゲル:伝統的な移動式の住居)の現物でした。中に入ることもでき割合広く感じました。もっとも近代化された遊牧民はテレビも見るし冷蔵庫もあるようです。バイクや車で家畜を見に行くこともあるそうです。馬よりもずっと機動性が高いからだとか。近代化の波は否応なくモンゴル遊牧民にも押し寄せているようです。

モンゴル、中央アジアのゾーンが終われば、先生とはお別れしてフリーで館内を見て回りました。見学が終わってから、館内の「森の洋食グリルみんなぱく」でみんなと昼食をとり楽しいひと時を過ごしました。

今度は一人でゆっくり民博見学をしようと思いつきながら帰りました。

文学歴史学科9期生

「二都を行く」

研究生 木下 俊造

2022年12月7日、5月以来の同期会開催。今回は、神戸北野町でのランチ会がメインの忘年会です。三ノ宮駅での待ち合わせから、出迎えのマイクロバスに14名が乗り込み、約10分で「神戸北野ダイニング NinNin」に到着。

お久しぶりの方2名の参加もあり、皆様の語らいも最高潮寸前に「彩御膳」が運ばれ、食事開始と



なり暫しの静寂！ 後半の現況紹介には、人生いろいろ、いろいろな色に染まっていくものと、得も言われぬ感動を味わっていました。

ランチの後、駅と北野町散策の方に別れ、半年後再会を約してお開きに。

早くも半年近く経過し、2023年5月23日の同期会は2019年大山崎以来の京都、『京都市京セラ美術館』でのマリー・ローランサン展。

絵画やファッションはもちろん、同年代のシャネルや庭園にも魅了された後は、バスで15分ほどのランチ会場でしたが、岡崎から四条河原町まで50分近くウォーキングされた健脚の方もおられたようです。



ランチ会場は三井ガーデンホテル河原町浄教寺2Fの「僧伽小野浄教寺店」。5種類のメイン料理から選ぶランチとおしゃべりの後は、会えなかった方や会うこと叶わぬ方の話も含めた近況報告後、年末の再会を願ってお開きとなりましたが、12名の皆様のおかげで、13年分の素敵な時間を共有できたことに、大感謝！ です。

私のシニアライフ

その時私の人生観は変わった

国際文化学科 3年 三谷 美沙子

厳冬の地下鉄本町駅で出会った老夫妻との物語です。日本人女性とアメリカ人男性の二人連れに、2日連続約束もせず同じ場所で偶然か、必然か?! 運命の出会いに遭遇したのです。お互いビックリ。こんな事信じられない出来事だと感動しました。

地下鉄の車内で、数分間カタコトの英語で会話をした際に、夫人から住所を頂き、私も慌てて住所交換し Good Bye と別れました。

暫くしてアメリカからエアメールが届きました。早速開封すると中には1冊の英語の本が入っていました。

『SO FAR FROM THE BAMBOO GROVE』(YOKO KAWASHIMA WATKINS 著)です。全米の推奨図書社会科の副読本でした。

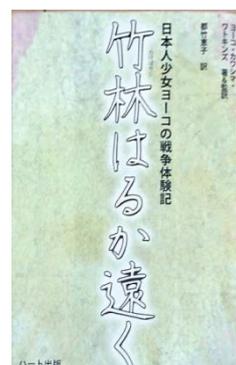
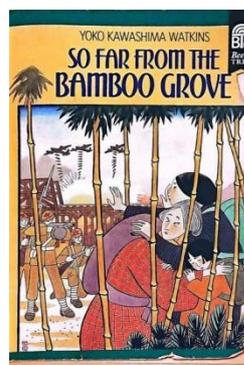
ニューヨークタイムズ賞や1999年 Abby から平和賞受賞。

この賞はガンジーやマザーテレサ等平和に貢献した人達に贈られた賞との事です。

凄い方に出会ったと身震いしました。その本を手にした私は次の日から辞書を片手に必死に読み進めました。今なら簡単に翻訳できますが。(笑)

2013年日本語版「竹林はるか遠く」が発刊されました。本の内容は1945年の終戦時に、任務で離れられない父を残し、朝鮮北部の羅南から母と姉と一緒に、幼い少女だった彼女が、命からがら朝鮮半島を南下して引き揚げて来た体験と戦争の悲惨さの経緯を、敗戦後の少女の眼を通して書かれています。昨今のロシアとウクライナの戦争と重なり、何とも複雑な気持ちになります。

日本の若者たちにもこの物語を読んでいただき平和の有難さを感じてもらいたいです。日本語版は図書館で閲覧出来ると思います。



ヨーコ・カワシマ・ワトキンズさんからいただいた本とその日本語版

ここから私の物語が始まります。

私は若い頃から海外に憧れていていつか行きたいとずっと夢見ていました。

言葉も文化も生活様式も違う国の事を、当時パソコンも無く手書きで自分の思いを書き、暫く彼女と文通を続けました。その結果2003年アメリカボストンに住む彼女の元にホームステイの旅に出たのです。

その時私の人生観は変わったのです。

「念ずれば必ず叶う」ボストンステイ中に福祉施設見学や福祉衣料を見聞し体験する事が出来ました。日本ではやっと介護保険制度が出来た当初で右も左も分からないまま帰国後単独でユニバーサル衣料(障がい者でも着脱が容易でしかもデザイン性に優れた衣料)を提案しました。今から考えると無謀な挑戦だったと思います(若かった)。ユニバーサル衣料と介護福祉に関わった事で沢山の方々との出会いが有り勉強した事が今では最高の財産です。

20年経った現在は園田学園女子大学シニア専修コース国際文化学科でシニアの仲間達と再び青春を謳歌しています。

「けやき軽音楽クラブ」にも所属し、園田シスターズとしてボーカルを担当しています。学内演奏やボランティア活動で介護老人福祉施設を訪問しています。コロナ禍の中で2022年7月に兵庫県立芸術文化センターでサマーライブを人数制限しながらも開催する事が出来ました。

昨今はコロナの終息も近くシニア世代が明るく元気に活動し、少しでもエネルギーを伝え共有する事が社会貢献に繋がると思っています。アクティブシニアライフを満喫して人生の有終の美を飾りたいと願っています。



ヨーコ・カワシマ・ワトキンズさんから届いた写真記事の切り抜きと、本の裏のサイン入り言葉

「琵琶湖疏水」 聖地巡礼の旅へようこそ! (蹴上編)

国際文化学科2年 濱口 祐一

明治14年1月に第3代京都府知事に就任した北垣国道(きたがきくにみち)は、明治維新による東京遷都で斜陽化著しい京都を活性化させるため「琵琶湖疏水」の建設を構想した。

琵琶湖から水を引き、その水力発電で新しい工場を興し、船で物資の行き来を盛んにしようという産業振興策だった。今も現役の産業遺跡「琵琶湖疏水」のとおきのおきの聖地(スポット)とそれにまつわるエピソードを紹介したい。

夷川発電所の北垣国道像—

京都府 VS 滋賀県

琵琶湖疏水の建設着工にはまず琵琶湖を有する滋賀県との了解と協力を取り付ける必要があったがこれが困難を極めた。滋賀県にとって琵琶湖の水を取られるだけの琵琶湖疏水には何のメリットもなかったからだ。反対派の急先鋒は滋

賀県令の籠手田安定(こてだやすさだ)で、北垣との間で厳しい交渉が続いたが両者折り合わず膠着状態になった。業を煮やした北垣は強硬手段に出た。なんと政府最上層部の松方正義や山縣有朋に働きかけ籠手田を

元老院議員に“栄転”させ、替わりに籠手田を説得するために政府から派遣された中井某を新たな滋賀県令に任命したのである。政敵を体よく追っ払ったのである。目的のためには手段を選ばない強靱な精神力である。



蹴上疏水広場の田邊朔朗像—

琵琶湖疏水の設計者

公園の一角に琵琶湖疏水を設計した田邊朔朗(たなべさくろう)の像が立つ。当時、田邊は東京の工部大学校(後の東京帝大工学部)を出たばかりの21歳の青年だった。彼が書いた琵琶湖疏水に関する卒論が北垣の目にとまり、土木技師に採用されたと驚きだ。新卒社員を巨大プロジェクトの責任者に就任させるようなもの。実に無謀としか思えない。

りの21歳の青年だった。彼が書いた琵琶湖疏水に関する卒論が北垣の目にとまり、土木技師に採用されたと驚きだ。新卒社員を巨大プロジェクトの責任者に就任させるようなもの。実に無謀としか思えない。



南禅寺の「水路閣」—

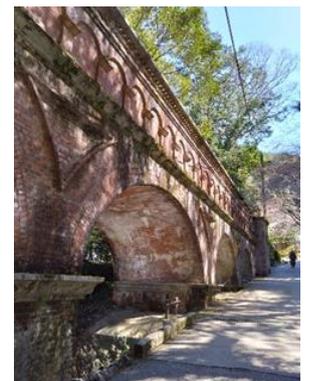
「赤い霊柩車」のロケ地

この上を疏水が流れているとは到底思えない全長93mの空中導水路。ローマ時代の水道を思わせる重厚な造りに圧倒される。だが、ここは南禅寺の境内である。臨済宗の大本山、京都五山の一つに数えられる名刹、南禅寺の境内に疏水を通す巨大アーチを建設して良いのか? 事実、水路閣の建設に当時の福沢諭吉が「古都の景観を破壊するもの」と口を極めて反対したという話が残っている(注1)。

また、水路閣のすぐ前には南禅寺発祥の地と言われる南禅院がある。これは南禅寺を開創された亀山上皇の分骨所であり、いわば、“南禅寺 of 南禅寺’s”。

当時激しい反対に会ったことは想像に難くない。水路閣建設を許可した寺の英断に感服するとともに、ここでも北垣知事の無茶ぶりに驚かされる。しかし、100年を経過して煉瓦は色褪せその風合いは古刹、南禅寺と見事にマッチしている。

さて、この水路閣、テレビでよく登場する風

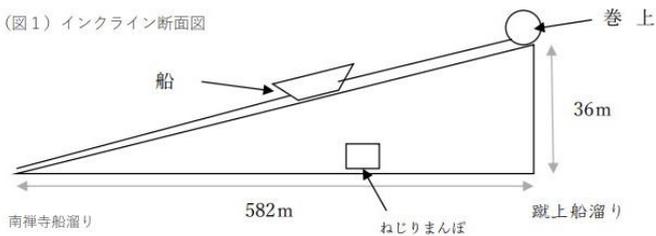


景ではないだろうか? そう山村美沙サスペンス「赤い霊柩車」の有名なロケ地である。水路閣をバックにして石原明子(片平なぎさ)とフィアンセの黒沢晴彦(神田正輝)が、犯人が誰か、なぜ解きをするシーンを良く見た。だが残念なことに、2人は結ばれることなく今年の3月17日に最終回をむかえた。

蹴上インクライン

傾斜鉄道、ケーブルカーと同じ

疏水には船で旅客や貨物を乗せ行き来したが、蹴上船溜りと南禅寺船溜りの距離は約582m、落差は約36mあったため、その間は船を通すことは無理だった。両船溜りに到着した船が旅客や貨物をのせ替えることなく運航できるように考えられたのがこのインクライン(傾斜鉄道)である(図1参照)。傾斜地に4本のレールを敷設し、船や貨物を台車に乗せてワイヤーロープを巻き上げて台車を上げ下げした。



蹴上発電所—疏水の水で日本初の発電

ゴシック風の教会を思わせる赤煉瓦の建物が見える。これが関西電力の蹴上発電所。琵琶湖疏水の第1期工事が完成した明治23(1890)年の翌年11月に、疏水の水を利用して日本初の発電を開始した。この発電所が稼働すると、まちに電灯が点き、工場の機械化が進んだほか、



日本初の電気鉄道の営業がスタートした。

琵琶湖疏水記念館

琵琶湖疏水ファンの聖地

南禅寺船溜り横に琵琶湖疏水記念館が建っている。京都市上下水道局の施設で市が琵琶湖疏水竣工100周年を記念して平成元(1989)年8月に開館。入場無料がうれしい。3階建てだが入口は2階で、1階に降りるとすぐそこに疏水の水面が見られる。ここが南禅寺船溜りで、向こう側に岡崎動物園が見える。館内には琵琶湖疏水に関する文献や図面などさまざまな資料が展示されている。周辺地域のジオラマも楽しい。“琵琶湖疏水ファン”にとってまさにここは聖地。



おわりに

琵琶湖疏水は京都を再生と飛躍に導いたわが国の近代化を現在に伝える産業遺跡であるとともに、今なお発電や上水道、京都御所や平安神宮などの用水に利用される現役の疏水である。ゆっくり流れる琵琶湖疏水の流れに目をやりながら散策してはいかがですか?

(注1) 浅見素石著「よもやまばなし 琵琶湖疏水」

(サンライズ出版) P141

(参考文献)

- ・前掲書
- ・大人の遠足 BOOK「近代土木遺産ウォーク 関西」(JTBパブリッシング)
- ・2018年度改訂版「琵琶湖疏水の歴史散策」(発行:近代京都の礎を観る会)
- ・「そすいさんぽ 大津—鴨川コース」(発行:京都市上下水道局)

リベンジ 種子島？

国際文化学科3年 鈴木 好夫

宇宙に最も近い島

新型コロナ感染が話題になり始めた令和2年1月、HⅡAロケット打ち上げを見学に2泊3日の種子島ツアーに行きました。現地は曇り時々雨のち晴と不安定な天候で、1日遅れてのロケット打ち上げも、施設の設備不良で中止となり、3日間の種子島観光のみのバスツアーとなってしまいました。(けやき便り第22号掲載)



リベンジ種子島(Ⅰ)

あれから丸3年、令和4年12月、まだ新型コロナ感染はおさまりをを見せていませんでしたが、ツアーが再開されたこともあって、1月24日出発、翌25日打ち上げの現地1泊の弾丸ツアーに申し込みました。



しかし全国的な寒波の到来で、出発の前日になって旅行社からロケットの打ち上げが1日延期になり、見学が出来ないが観光ツアーは実施するとの連絡がありました。観光は前回行っていたのでツアーはキャンセルにしました。

翌日、鹿児島から種子島への高速船も悪天候で欠航となり、結局観光ツアーも中止となりました。1月26日、偵察衛星を搭載したロケットHⅡA-46号機は1日遅れになりましたが無事打ち上げられました。

リベンジ種子島(Ⅱ)

2月に入り、12日に打ち上げが予定されていたHⅢロケット1号機の打ち上げが15日に延期になったため、新たなツアーが再募集されることになりました。このツアーは1月に募集がありましたが、既にHⅡAのツアーを予約していたこともあって、申し込みをしませんでした。

HⅢロケットは、HⅡBロケットの後継機として以前から開発中の低コストの新機種で、今後の宇宙事業にと期待されていました。

今回のツアーは鹿児島集合の1泊2日で、往復の飛行機の予約も確認して即申し込みをしました。2月14日朝5時出発、関空7時のフライトで鹿児島に行き、集合場所の港に着いたのですが、打ち上げが再延期されたとの連絡が来ました。元々、種子島観光は必要としていないので、帰りの飛行機を急遽変更し、市内を少しまわって帰りました。結果ツアーは当日キャンセルで鹿児島日帰り観光旅行となりました。



2月17日、気象衛星だいちを搭載したHⅢ-1号機は5日遅れの打ち上げになりましたが、補助ロケットが点火せず、中止になりました。

再度の打ち上げが3月6日に予定され、鹿児島港からの日帰りツアーの再々募集がありましたが、前後泊が必要で申し込みませんでした。

当日天候不順とのことで翌7日に変更され打ち上げられましたが、2段目ロケットが点火せず、結果は最悪の失敗となりました。

リベンジ種子島？

あくまでロケット打ち上げ応援ツアーですので、HⅡAは100億円(HⅢは50億円)のコストを考えると、少しの天候不良、設備不良で延期、中止はやむを得ないものとしています。

「ロケットはいいな～」という日がいつになるのか「リベンジ種子島」はこれからも続きます。



阪急武庫之荘駅

周辺散歩

研究生 高山 純子

阪急武庫之荘駅といえば、線路沿いの桜並木が有名？ではないでしょうか。

ずいぶん前になりますが NHK の朝の番組で桜のことが放映され、その記念碑が建っています。

桜の時期になると、駅東側の踏切近辺には撮り鉄が集まります。普段でも電車を撮影している人は見かけますが、桜の時期は特に多くて4、5人待機している時もあります。桜と電車を撮るのにはもってこいの場所なのです。



武庫之荘駅は当初阪急神戸線で駅前ロータリーが設けられた唯一の駅だそうですが、現在は南北両側にロータリーがあり、春は桜祭り、秋はロータリー祭りが開催されます。最もここ数年はコロナ禍で開かれていませんが。

駅南側徒歩5分ほどの大井戸公園には約130種類、2000本のバラ園があって、季節になると美しい花々が楽しめます。

また、公園内には大井戸古墳(直径約13メートルの円墳で、古墳時代後期のものと言われている)もあります。



付近の水路は、阪急電鉄が開発時の区画整理に合わせて水害対策と周辺農地の水利権のため

に整備したということです。

この水路にかかる橋は、駅のすぐそばが「一の橋」で、順番に4丁目辺りでは「十七橋」となります。「十一橋」から水路沿いを歩くと建物は変わってしまっていますが、昔ながらの住宅地といった感じがします。



私が小学生の頃、「十一橋」の近くには、庭にプールのあるお屋敷があって、子供心にはどうなっているのだろうと、垣根の隙間から覗いてみたりしたものです。しかし、そこはとうの昔にマンションになってしまいました。

1丁目の通称「三角公園」では、高さ10メートルのヒマラヤ杉にクリスマスのイルミネーションが飾り付けられます。これは1974年からだそうです。

余談ですが、秋には武庫川の髭の渡しのコスモス園も見ごたえがあります。(駅北側からバス利用)



私は本来の武庫之荘の住人ではありませんが、武庫之荘駅近くの地で生まれ育ち、現在に至ります。私が認識している武庫之荘の一部を紹介しました。

9月15日動転

生活が一変

研究生 中村 米三郎

昨年9月12日の84回目の誕生日を送り、人生も最終期に入っていますが、少し、認知症のことが気になり、脳のMRIを取りたいと思い、市立病院が実施している「人間ドック」を10数年ぶりに9月15日受診しました。

「人間ドック」の結果は、「肝臓」を除き、ほぼ良好でした。

私は、これまで見かけは何の問題も無く過ごしており、また市が行っている検診は、毎年受診して結果は殆ど良好ということもあり、健康にはあまり心配していませんでした。

また、今回問題となる「肝臓」は、50年前頃に急性肝炎になりましたが、それ以後、血液検査の「肝機能検査」が問題なく推移していましたので、「肝臓」には不安はありませんでした。

1. 9月15日の「人間ドック」の結果

「人間ドック」の検査が終わり、最後に医師の検査結果による診断があります。

医師の眼は、「肝臓」の超音波（エコー）検査の画像のところで止まっていました。重苦しい声で、「肝臓」に腫瘍があります、それもかなり大きいと思われます、明日にでもこの腫瘍の精密検査が必要です、ということでした。

翌日から、いろいろな検査をして頂きましたが、結果は「悪性腫瘍」でした。それも、その大きさが10cm以上の大きな「悪性腫瘍」でした。

2. 私の人生最大のミス

「肝臓」は、ご存知のように「肝臓」が半分程度の??ダメージがあっても「肝臓」としての一人前の機能が働くそうで、自覚症状があまり出ないそうです。私は10数年以上「人間ドック」も超音波（エコー）検査も受けていませんが、これが、私の人生最大のミスになります。

3. 生活は「腫瘍」中心に

9月16日から、いろいろな検査を受けるた

めに市立病院に通いました。

その結果、主治医は高次施設（大学・がんセンター等）での集学的治療の必要性を感じられ、H医科大学を紹介されました。

4. H医科大学

(1) 昨年10月11日にH医科大学肝胆膵内科を受診しました。

もういちど、検査を行い、最後は4日間の入院（一回目）をして、腫瘍の組織の一部をとる「肝生検」を行った結果、腫瘍は悪性腫瘍と判定されました。

H医科大学のグループ内で治療方法についての検討結果、手術もありうるかも分からないということで治療担当は肝胆膵外科になりました。

(2) 肝胆膵外科では、腫瘍が大きすぎるので、少しでも小さくするため、抗がん剤治療を行うことになりました。

最初は、飲み薬の抗がん剤治療を行いました。この抗がん剤の副作用の確認のため3日間二回目の入院をしました。ただ、主治医は、この薬よりも免疫療法（点滴）に期待して、免疫療法に変更になりました。やはり副作用の確認のため3日間三回目の入院をします。免疫療法は効果があったと思いますが、主治医は「中村さんは84歳ですが、体力は十分ありますので手術をしましょう」ということになり、治療は手術になりました。

(3)手術・退院

手術の日程が決まり、入院（四回目）をしますが、近所の医師から出されていた薬の一つに手術では問題がある薬があり、手術を延期しました。4月13日に五回目の入院をして手術を受け、4月25日に退院をしました。

今後は、再発等の経過をみるために、数カ月に一度、CTまたはMRI（ともに造影剤付）の検査を受けることになっています。

5. むすび

この病気になってから、医療関係者をはじめ、家族やまわりの多くの方々にご心配いただき、お世話になりました。お礼を申しあげますとともに、今後もよろしくお願ひいたします。

皆さんも、私のようなミスをされないようにくれぐれもご注意をください。

出会い・つながり・学ぶ

文学歴史学科3年 河田かつのぶ

21回 神戸・移住ミュージアム見学 2/22

ブラジル移民がたどった道

お話 天辰 充幸さん(日伯協会)

フィールドワーク 木村 英助さん

神戸市立海外移住と文化の交流センターは元・国立神戸移民収容所(1928年建設)で、館内の「移住ミュージアム」では移民の歴史やブラジルでの暮らしを紹介しています。見学前に天辰充幸さんから、ブラジル移民について以下のお話を聞きました。

165家族、781人を乗せた笠戸丸が神戸港を1908(明治41)年4月28日に就航しました。移民の背景には1888年のブラジルの奴隷解放、ヨーロッパから150万人の白人労働者の移住と帰国があります。コーヒー農場の労働者不足を埋めるために1907(明治40)年に、3年間で3000人の移民契約を民間の移民会社が結んだことからブラジル移民が始まったのです。

約束の地に着いた7月には、コーヒー豆の収穫が終わっており、56日目には590人が夜逃げをします。半奴隷扱いの過酷な労働と、食事も住まいも十分に与えられない生活、言葉の壁が移民者を苦しめました。

しかし、コロノ(契約労働者)から小作農、自立した農業経営者へと、生活を切り開いてきた移住者の努力がありました。土地の分割分譲を請け負い、奥地開拓に赴いた移住者もいました。また都市での行商や家事労働の仕事をする移住者も増え、日本人街ができたのです。

1993(平成5)年の



契約移民終了までに104万人の日本人が世界へ移住していったのです。そして、工夫に富む勤勉さ、組織力と協力、共助の精神で高い評価を得たと言われています。

見学の後、センター前にあるブラジル国花「イペ」の木の解説を研究生の木村英助さんから聞き、ブラジル移民が船に乗るために歩いた「移住坂(鯉川筋)」を通り、「神戸港移民船乗船記念碑」(写真左下)のあるメリケンパークまでフィールドワークしました。

22回 能勢 妙見山 5/21

BBQ と散策



案内 眞鍋 幸裕さん 小笠原 昭博さん



上 妙見山参道入口
中 バーベキューサイト
下 妙見山の三角点



日本一周 船の旅

国際文化学科 (休学中) 富田 宏和



旅立ち

フェリーで日本一周の旅に出してみようと思った。出発は名古屋港から出港して仙台港そして、

苦小牧港までの約40時間の船旅である。飛行機だと約1時間半で到着。私は、このゆっくりと流れる時が好きで時々フェリーを使う。

旅の楽しみは、人との出会い、食事、景色、宿に流れる空気感と風習だ。

初日は雨と霧のために日の出は拝めず。甲板に出たが強風と雨で飛ばされそうになった。自然の前では人間はやはり敵わない。

苦小牧港に到着。かもめが迎えてくれた。苦小牧港から登別温泉に向かってしていると所々に

競走馬の調教場がある。芝生広がる緑の景色が目眩しい。広さは甲子園球場の千倍位あろうか。山間部に入ると桜が満開で、その合間から雪山が見えるのは心が和む一時である。大雪山系や



北海道富良野の春

ブドウ畑を横に雄大な一直線の大地を進んで行く。以前、この一直線の道を走った経験がある。この道には悲しい歴史があった。

ニングルテラスの森の中を歩くと森林浴で足取りも軽くなり心も穏やかになってくる。

少年時代に戻った感じで被っていた帽子を思わず投げ上げた。

移動の車内は暖かい。降りると冷え冷えとした大地に直面する。

この感覚が私は好きだ。突き放すような、見守るような両極端の自然を強く感じる。そして学生時代を思い出す。全日本大学駅伝で苦しさや誇らしさの狭間を漂ったような。

旭川駅に到着。寒くてコートが欲しい。道行く人達はマフラーをしている。温かい鰻と蕎麦で寒さを凌いだ。長袖シャツを買った。旭川駅の反対側を散歩する。旭川は雪と寒さの戦いだと聞いたことがある。雪対策で急な三角屋根が多い。朝食にアイスクリーム。

青空の中ファーム富田に到着。写真家になって北海道の初仕事がこの場所だった。

「ファーム富田」「とみたメロンハウス」という看板が目が行く。嬉しくなって、また少年のようにしゃぎ回った。ここでは少年になって良いのだ。

小樽はオシャレであり大正ロマンを受け継いでいる街でもある。港町の新鮮なお寿司を頂いた。名残惜しいが、今夜、新潟港に向けて出港する。

新潟港は快晴。慌ただしくトラックが下船していく。首都圏に向かうのだろうか。下船前に港を眺めると、ここでもかもめが迎えてくれた。新潟駅から特急で田園風景を見ながら上越妙高、金沢に進んで行く。



春を待つラベンダー

窓からは昭和の景色が広がっている。祖父と田植えをした記憶が蘇った。閑散線区が消えて行く寂しさを覚える。新幹線が次々と建設されると、ローカル線を利用する

機会が減ってしまう。

新幹線は確かに速くて便利だ。だが、目に見えない大切な何かを失っていく気がする。

特急の旅を終え、神戸港発のフェリーで宮崎に向かう。甲板から見慣れている神戸の風景が懐かしい。昨日まで北海道にいたのに、今、神戸の自宅前を素通りして、明日には九州にいるのが不思議である。



南国の香り

迎えてくれる。何か良いご縁がありそうだ。桜島に行くと硫黄の匂いが僅かにした。噴火の予兆では。

地元の方は噴火のことを「へ」と言うそうだ。

「へがふっちょど」との声が聞こえてきた。灰が降っているとの意味である。

山のカーブを軽やかに走って、独特の溪谷美である高千穂に向かう。美しい緑が目には染みる。ツーリングを楽しむライダー達とすれ違う。爽快だろう。昭和を思わせる山菜料理の昼食は、母の味で懐かしい。少し歩いて日本一の溪谷美、高千穂を眺める。美しさに心奪われた。

高千穂を後に由布院へと、やまなみハイウェイをひたすら走る。標高 1000m 以上の道路を走る。青空が近い。この辺りは、かやぶき屋根が多く、玄関には非常食のとうもろこしが、規則正しくぶら下げられている。

由布院は賑やかな街に変貌していた。一過性の箱に見える。時間をおいて来た時には変わっている気がする。表通りは観光客で溢れているが、一步奥に入ると時の流れがゆったりとして時間を忘れる。木々に隠れるように旅館の灯りだけが僅かに見えて素敵だ。

由布院から別府港へ向かうと、硫黄の匂いがバスの中まで染み込んでくる。所々で湯煙が上っている。別府港で、大阪南港までのフェリーが私を待っている。嬉しさと寂しさが交差した。

翌朝、明石海峡大橋の下から朝日を見上げ、左側には神戸の街並みが、微かに見える。長くて短く感じた旅が終わった。

休学中であります。このような機会を頂けて皆様に感謝しております。



神戸に一時帰省



筆者 鶴戸神宮にて

富田さんの写真



少年の思い出



心染み込む食感



運玉に良縁を祈る



桜島がへがふっちょど



懐かしい母の味



高千穂の溪谷美に陶醉



茅葺きに生活の知恵



若葉の灯火



故郷に繋ぐ橋

阿蘇くじゅう国立公園 「タデ原湿原」吟行

元研究生 春山 悦子

九月に入っても、猛暑続きの暑い日々の名残で暑いけれど、さすがに九重高原ともなれば、湿原を渡る風はひととき心地よい涼しさである。

「タデ原湿原は三俣山の麓、標高約1,000メートルの場所にある国内最大の中間湿原で、敷地面積38ヘクタールもあり、2005年に国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録され、昆虫や野鳥、動物、植物などの貴重な生息場所となっており、四季折々の花に出会える。

タデ原湿原は約一万年前に起こった九重山の火山活動によってできた湿地、山間地域に形成された中間湿原となった。

湿原の名前にある「タデ」は、青タデ。正式名称はヤナギタデという。特有の辛みを生かして潰して酔に混ぜ、鮎料理などに利用されるタデ酢として重宝される植物。湿原には、この植物がたくさん生えている。

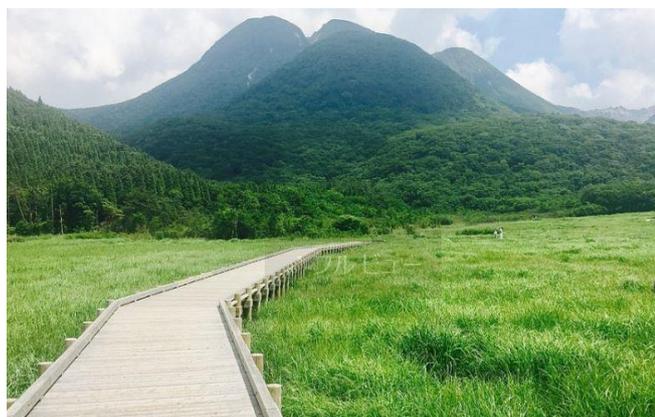


蓼の花

高原の芒よ雲を逸らせて

ヒゴタイに出会ってからの山の風

容赦なくたかい水音男朗花



湿原は木道の遊歩道が設けられていて歩きやすい。タデ原絶景コース・タデ原一周コース・草原森コースなどがある。入り口付近で、タデの葉っぱをちぎって手渡されて、恐る恐る口に入れてみると辛いなの、口のなかぴりぴりして、しばらく治らなかった。

木道を外れて森の坂道を上っていくと、小高い丘に出る。みはるかす湿原の果てに連なる優しい山並みの美しさにしばし呆然と立ちつくしてしまう。気を取り直して、どこからか聞こえてくる水の音などに癒されつつ、ゆっくりと木道の方へ。

ひととせを生きた言の葉松虫草

息災の五体で泳ぐ芒原

遠山並に囲まれていて水引草



ヒゴタイ

湿原の遊歩道は、段差が少ないバリアフリー設計になっていて、草花との距離も近く、日のひかり、風のそよぎなど自然との一体感を満喫しながらの、至福の時間だった。

秋草の名を聞き木道鳴らし行く

露草に励まされてはあるきだす

吾亦紅わたしにもある可能性

向う脛打たれることも蓼の花

おやじバンド「THE GAKU-YOU」

研究生 徳田 将之

「おやじバンド」の定義？なるものを調べていたら、要するに「中高年メンバーによるアマチュアバンド」ということらしい。なるほど、それなら「マダム」？たちも所属する男女混成（男性4人，女性5人）バンドの我が THE GAKU-YOU もそのカテゴリーに入るの、特に若者の間ではネガティブな意味で使われている「おやじ」という枕詞ではあるが、件（くだん）の「マダム」たちにはご容赦願いたい。

そう言えば、加山雄三とザ・ヤンチャーズの「座・ロンリーハーツ親父バンド」という曲を THE GAKU-YOU でも過去に幾度か演奏したことがあるが、プロのこの「親父バンド」にも紅一点で森山良子が入っていたし・・・。

まあ、そんなことはどうでも良いのだが、2016年4月に「けやき軽音楽同好会（今年4月からけやき軽音楽クラブ）」として発足以来、その認知度はシニア専修コース受講生のなかでは相当高まってきたのではと思っている・・・、がコロナ禍の3年余りの間は構内立入禁止となり、学内クラブ活動が大幅に制限されたこともあり、特にその間に入学された方々の認知度はかなり低いのではないかと危惧している。

そこでこの誌面を借りて4月13日の入学式後に行われた「クラブ・同好会の紹介」でご紹介した当クラブの年間演奏活動（ライブ・コンサート）の三本柱である、

1. シニア生、及び友人・知人向け
2. 介護施設向けボランティア訪問演奏
3. 一般向け公共施設のイベント参加

の中から1. のシニア生（つまりこの読者）向けに今年度計画しているライブ・コンサートについてご案内したい。

THE GAKU-YOU はコロナ禍前には基本的にライブ・コンサートを四半期毎に、

春：ニューレパートリーライブ（学内）
 夏：サマーライブ（学外）
 秋：けやき祭ライブ（学内）
 冬：クリスマスライブ（学内）

と、開催していたので、新型コロナの5類移行に伴い解禁された学内ライブ・コンサート活動もこのペースで再開したいと思っています。

その学内開催の会場は第1音楽室をメイン会場にしていたのですが、この教室の音響装置はかなりの優れものなので、未だこの教室でライブの生音を視聴されておられない向きには、夏季休暇前に開催予定の「練習成果発表会～新入生歓迎ライブ」で是非とも体感していただきたいと思っています。

ところで、「練習成果発表会」とはなんととも垢抜けないタイトルなのだが、これは授業時間中に教室（音楽室）を使用させてもらうためのセンターとの「お約束」（笑）とご理解ください。

過去のライブ・コンサートの模様は大学のHP「受講生専用のページ」の「けやきのわ～シニア受講生のための交流ブログ～」に掲載していますが、その一例を以下にピックアップしました。

春：ニューレパートリーライブ
 (2019年6月14日)

練習成果発表会
 ニューレパートリー&
 リニューアルナンバー・ライブ・コンサート
 2019年6月14日(金)
 会場：第1音楽室、1号館4階
 時間：14時40分～16時30分
 (開場：14時10分)
 参加費無料 事前予約不要

演奏予定曲
 若者たち/心の旅/ドレミの歌/神田川/糸
 大阪ラブソング/風に吹かれて
 亜麻色の髪の乙女/イエスタデイ/他

昨年同様、今年も練習成果発表会を開催します。毎年レパートリーに取り組み、バンドのレベルアップに努めてまいりました。今年も新年より練習してきた新曲と、これまでに演奏した曲を含め、さらにステップアップしたライブ・コンサートになればと企画しました。練習成果発表会を通じて皆様と一時でも交流出来ればと願っております。皆様のご来場、心よりお待ちしております。

園田学園女子大学シニア専修コース 軽音楽同好会 THE GAKU-YOU

<http://saturn.sonoda-u.ac.jp/~senior/seniorkyaki2/2021/01/28/>

夏：サマーライブ

(2022年7月22日)

園田学園女子大学 シニア専修コース 軽音楽同好会
「THE GAKU-YOU」
 7周年記念サマーライブ

2022 **7.22** (金) 兵庫県立芸術文化センター
 開演：14時 神戸女学院小ホール
 (開場：13時30分) (阪急西宮北口駅 南改札口スグ)
 ・入場無料 全席自由 主催：園田学園女子大学 シニア専修コース
 ・予約制 (詳細下記) 軽音楽同好会「THE GAKU-YOU」

演奏予定曲 (全20曲程度)
 「夢の中へ」「あの実情しい恋をもう一度」
 「風に吹かれて」「ハブ」等、アメリカン・フォークソング
 「ダイアナ」「悲しき街角」等、オールディーズ
 「恋のハカンス」「情熱の花」等、ザ・ビートルズ、ヒット曲
 「恋」「誰、その愛」「イエスタデイ」等

(注) 演奏曲は変更する場合があります。

「事前予約(登録)のご案内」 締切：7月8日(金)
 【在学生(シニア専修生)】(下記A,Bのいずれかより申し込みください)
 A 軽音楽同好会から届く案内メールに「お名前と所属学科・学年」(研究生は卒業学科)をご記入のうえ返信ください。(ご同伴の方があれば、一緒にご記入ください)
 B 所属クラブ代表者から届く(転送された)軽音楽同好会からの案内メール記載のメールアドレス「kuno.yamane@gmail.com」(山根邦男)宛に直接返信ください。返信メールの件名欄には「芸文2022」、本文には「お名前と所属学科・学年」(研究生は卒業学科)をご記入ください。(ご同伴の方があれば、一緒にご記入ください)

【一般招待者(学外の方)】
 軽音楽同好会から届く案内メールに「お名前」をご記入のうえ返信ください
 ① ご同伴の方があれば、一緒にご記入ください
 ② 園田シニア専修コース 06/06の方はその旨明記ください

(注) 感染再拡大等により、公演規模を縮小する場合があります

「当日入場のご案内」
 小ホール当日受付でお名前をお伝えください。「事前登録名簿」と確認後にご入場頂きます

「藝文からの新型コロナウイルス感染予防対策への協力依頼」
 ・37.5度以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただきます
 ・マスクを着用されない方はご入場いただけません。(マスクシールド不可)
 ・感染再拡大等により、公演中止となる場合があります



冬：クリスマスライブ

(2019年12月6日)

第3回クリスマス・ライブ
プラス「私にも歌わせてタイム」
(練習成果発表会)

2019年12月6日(金)
 14:40~16:30 (開場14:00)
 第1音楽室(1号館4Fエレベーター前)

恒例! 第3回「THE GAKU-YOU」クリスマス・ライブです。今年サブタイトルに「私にも歌わせてタイム」と銘打ち、皆さまからの飛び入り参加コーナーを別途に設けました。バンド演奏のバックで一緒に歌ってみませんか?

演奏予定曲
 クリスマス・メドレー 22才の別れ 学生時代
 イマジン シクラメンのかほり 京都の恋
 ヘイ・ジュード 夢の中へ その他
 (注) 「私にも歌わせてタイム」の楽曲は当日のプログラムで。

園田学園女子大学 シニア専修コース
 軽音楽同好会 THE GAKU-YOU

<http://saturn.sonoda-u.ac.jp/~senior/seniork eyaki2/2022/08/11/>

今年のサマーライブ会場は吹田市にあるライブハウスで開催予定なので、昨年(兵庫県立芸術文化センター・小ホール)に比べて会場の収容人員が大幅に少なく、昨年ご予約いただいた方(240名弱)の4分の1(60名弱)程度しかお越し頂けないのが残念ですが、現在予約のご案内をさせて頂いています。

秋：けやき祭ライブ

(2022年10月22・23日)

10月の「けやき祭」には例年2日間(土曜、日曜)参加し、1日は第2グラウンド設置の屋外メインステージ(以下写真参照)に、もう1日は屋内ステージで、過去には開花亭、第1音楽室、そして昨年は新館4号館5階のホールと場所や趣向を変えて登壇してきました。

<http://saturn.sonoda-u.ac.jp/~senior/seniork eyaki2/2022/10/>

<http://saturn.sonoda-u.ac.jp/~senior/seniork eyaki2/2021/02/18/>

バンド名のTHE GAKU-YOUは「学友」である「あなた(YOU)」と「楽友」として一緒に楽しみましょう!という意味を込めたネーミングです。

「NO MUSIC, NO LIFE」

SEE YOU AT THE SAID LIVE(S) !!

続 シンガポール 一口メモ



国際文化学科2年 角口 博敏

毎度のシンガポールのお話です。またかいなと言うお叱りも承知で一口メモに少しお付き合い下さい。コロナ規制も緩くなった4月の初めに機上の人となりました。相変わらずの暑さですが、ハーフシンガポリアンにとりましては、これではなくては駄目ですね。

さて、当たり前の事ですが、2023年の今は、1988年の赴任時とは全くの異次元の世界になっています。数十年ぶりに会う人の顔が違うように。今般、地元の人と給与の話をしていたのですが、その思いを強くしました。当時、初めて採用した女性社員の給与が8万円でした。但し、この金額自体は、当時、他のASEAN諸国では群を抜いて高給でした。周辺国の工員さんの給与は2~3万円でしたかね。それが今は20~25万円らしいです。日本では他国に比べて給与が上がらないと問題になっておりますが納得ですね。念の為ですが、国民一人当たりのGDPは、随分前に日本を追い越しているのですが…。

それでは、少しこの国の給与制度を解説しますね。給与所得者を例に取りますと現在は、給与の37%を源泉徴収されます。ただし、この金額は全て本人の為に積み立てられます。20%は、本人負担ですが17%は会社が負担します。この37%の資金で公団住宅を購入したり医療費、老後資金に充てられます。給与を貰っている間は、毎月の給与から自動的にローンの支払いが出来る仕組みです。それ故、国民の殆どが家持ちなんです。この住宅なんです。中のスペースだけを購入して、内装は各購入者が自由に出来るんです。流石に多民族国家ですね。中華系、マレー系、インド系等其々の好みに合わせてデザイン出来ます。所謂、注文住宅ですね。又、所得税ですが、税率は17%ですが住民税、相続税が有りませんので、随分恵まれています。会社側としては、年末か旧正月前にボーナスに見合

う額として最低1ヶ月分を支給し、それで所得税を個人で支払います。日本と違って随分と税制が違う関係で、結構小金持ちが多い印象があります。今、日本旅行にも彼等の姿が、あちらこちらでも見られるのは当然でしょうね。

今回、街の古銭屋で大日本帝国政府発行の紙幣(軍票)を見つけました。写真のように上からシンガポール(バナナムニー)、ビルマ、そしてフィリピンの軍票です。

戦争というのは、随分お金が掛かります。兵站と言いまして、武器、弾薬の他に食料品、薬品、生活用品等々、本当にある意味では兵站戦と言われる所以ですね。当時、これらを調達する為にこれらの軍票(紙切れ)を印刷して



乗り越えた様ですね。敗戦後は、本当に元の紙切れになりましたが…。随分、関係国には迷惑を掛けたようです。うーん、現在、ロシア、ウクライナは、頑張らなくて良いのに頑張ってますな。

最後に、又、食べ物のお話ですが、やはりチキンライスには外せませんね。チキンライスと言えは日本人にはトマトケチャップ味の例の食べ物ですが、当地のチキンライスは、似て非なる食べ物です。鶏がらスープでタイ米を炊き上げてその上に蒸し鶏や焼き鶏を乗けて特製ソースと一緒に貪り食べるわけです。まさにチキンとライスですな。美味し〜〜いよ。以前は150~200円で食べられましたが、今は500円もしますね。又、高級ホテルの超有名レストランでは、5000円以上もします。なめているのかと思いますが、やはりなめています。何でチキンライスが5000円もするねん、どんな鶏、どんなタイ米と思わず突っ込みたくなりますが、悔しいけれど、かなり美味しい。しかしこの店では「一度たべとくなはれ」とは言いづらいですね。しかし、町の屋台でも美味しいチキンライスが食べれますので是非ご賞味下さい。

皆様を待ってま〜す。知らんけど…。

上越・信州雪見旅 雪と思い出を求めて

文学歴史学科3年 小笠原 昭博

コロナ禍で暫く中断していましたが、学生時代の先輩と雪景色を求めて冬旅を再開しました。コロナ禍前、信州北部の湯田中温泉を訪れましたが、雪は殆どなく今回はそのリベンジ。

初日(2月27日)長野駅から「しなの鉄道北信濃線」で妙高高原駅へ。長野市内は全く雪がありませんでしたが、上越方面に北上し始めると車窓は一面の雪景色に変わりました。

妙高高原駅からホテルの送迎バスで赤倉温泉へ行き、雪深い(積雪2m位)赤倉温泉街を散策して、赤倉温泉(泊)。

赤倉温泉街を散策して驚いたことは、外国人(白人系)を多く見かけたことです。スノーボードを持った外国人があちこちの店先で屯していました。ホテルの朝食会場でも半数位が外国人で、ホテルの話によると、真夏のオーストラリアから雪質の良い赤倉に集まってくるそうです。

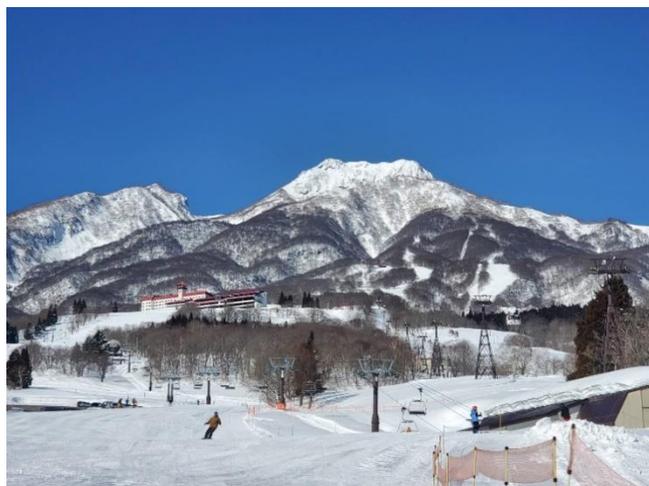


赤倉温泉街を歩く

二日目(2月28日)午前中、新赤倉温泉スキー場にある「妙高高原スカイケーブル」で妙高山の中腹(標高1300m)まで登り雪景色を眺望。午後、長野駅に出て善光寺を参拝、長野駅より「長野電鉄」で小布施駅へ、小布施温泉(泊)。



スカイケーブルからの背後の眺望

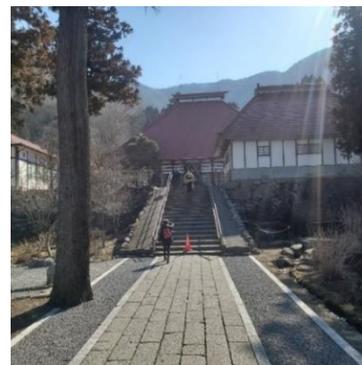


新赤倉温泉より妙高山(標高2454m)全景

三日目(3月1日)小布施温泉から、遠く西方に北信五岳(飯縄山・戸隠山・黒姫山・妙高山・斑尾山)を眺めながら、長野盆地の東端「せせらぎ緑道」を北上し、浄光寺～岩松院(北斎の天井絵「八方睨みの鳳凰図」あり)～北斎館へと歩き、竹風堂で昼食(栗おこわ定食)～小布施堂の栗モンブラン朱雀(世界一大きく美味?)を堪能し、長野電鉄小布施駅に戻りました。

今回は晴天に恵まれ青空と雪に覆われた山々の雪景色に魅了された旅でした。スカイケーブルで妙高山中腹まで登った時、昔日、雪の急斜面に飛び出して行ったスキー合宿が思い出されました。遠くに北信五岳を望みながら歩いていると、清んだ空気の中暖かい日差しが信州の春の訪れを告げていました。

次の冬は、松本から白骨温泉～新穂高温泉～新穂高ロープウェイで2156mの西穂高へ行こうかとの話で夢は膨らみました。

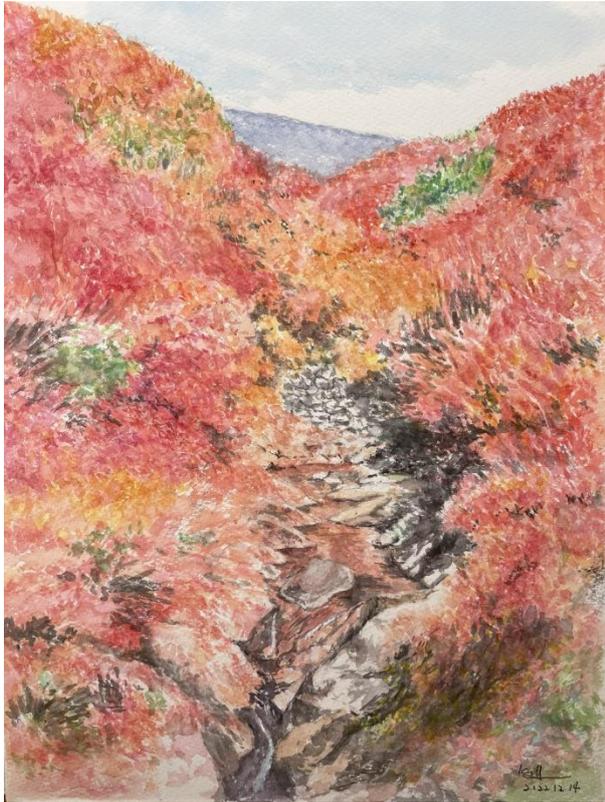


岩松院参道

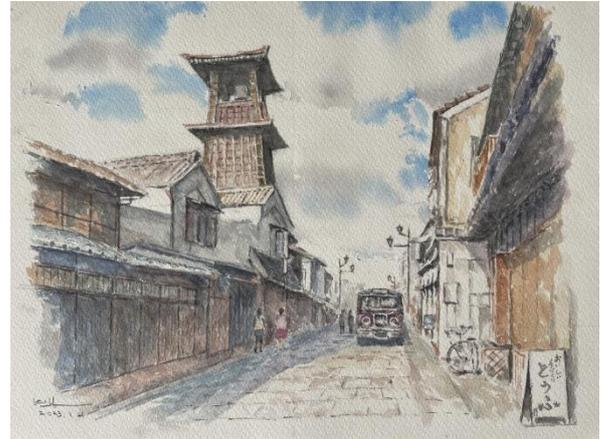
わたしの練習作品

水彩画

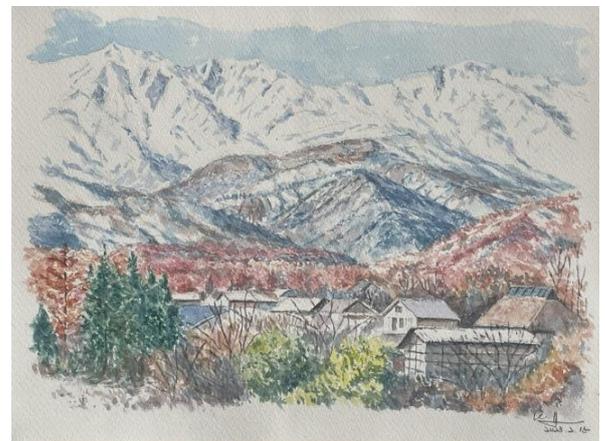
国際文化学科2年 山根 邦男



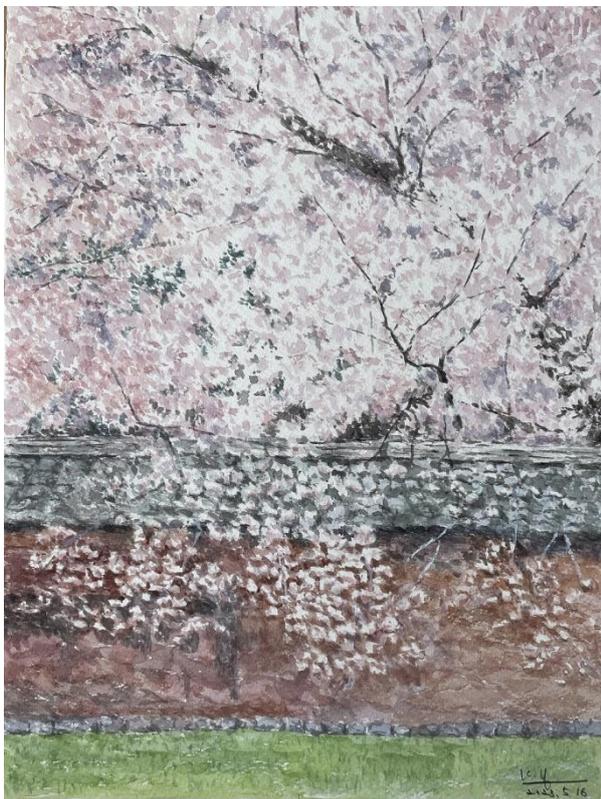
宮城 横川溪谷 (2022.12.14)



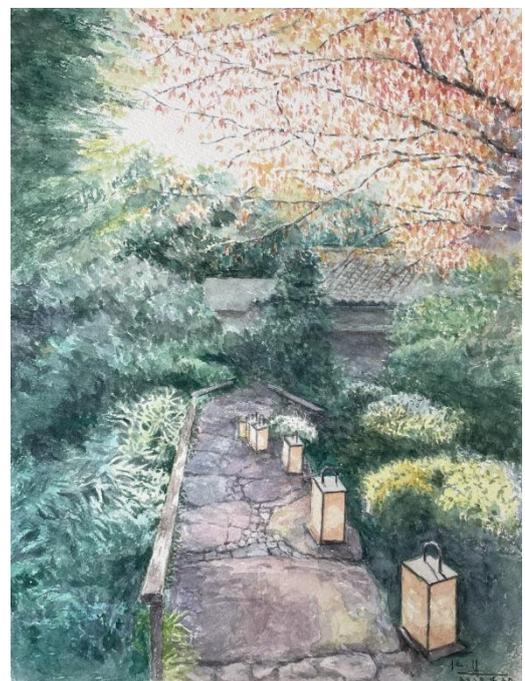
埼玉 川越 (2023.1.21)



長野 白馬三山 (2023.2.15)



京都 醍醐寺 (2023.5.16)



京都 栗田山荘 (2023.4.20)

けやきカラオケクラブ

総歌唱回数 3000へ！

研究生 木下 俊造

本年第1回の4月例会には、新入生5名の方の参加もあり、賑やかな幕開けとなりました。歌唱曲54曲、初歌唱曲も25曲と多くを数え、第2回例会後には、通算歌唱曲目数が1,130寸前、総歌唱回数も2,800に近づいています。

創部以来のモットーは、ゆる～い雰囲気、少しの時間でも、出はり自由、拍手自由、おしゃべりも自由ですが、おしゃべりしながらでもよく聞いている？ 本当に不思議なクラブです。

今年も昨年同様、多くの新入生参加者に恵まれ、皆様十分すぎる歌唱力で、周りのおしゃべりにも動じることなく、素晴らしいパフォーマンスを發揮されています。

例会実施は主に水曜か月曜ですが、センター前にあるクラブチラシを見ていただければありがたいです。

会場は密を避けるため、通常2部屋を確保し、4・5・6・7・8月に例会を実施、後期は夏休み終了直前からのスタートを予定しています。今年は、昨年のように例会が中止となることなく、順調に開催できればと願っています。

今後は、リクエストアワー・紅白歌合戦・トーク2・全国歌巡り・忘年例会に加え、1,234曲目記念と3,000曲歌唱記念を目標にできればと考えていますので、興味をお持ちの方は少しの時間でも、「雨ニモマケズ、風ニモマケズ、周リノオシャベリニモマケズ」歌われている不思議な世界を、一度覗いてみてください。



けやき軽音楽クラブ

2023 年度活動予定

研究生 木村 勲

2016年4月創部以来「けやき軽音楽同好会」の名で親しまれてきた名称を本年4月1日より「けやき軽音楽クラブ」に改称致しました。

新型コロナウイルス5類移行と名称変更に伴い、部員一同心機一転、以前にも増してスキルアップと活動範囲を広めていく所存です。

本年度の活動予定は以下の通りです。

■定期合同練習（毎週火曜日）

リズム教室午後2時～ ※見学歓迎！

■練習成果発表会（新入生歓迎演奏会）

日程：7月4日（火）

会場：第一音楽室 時間：午後1時30分～

■けやき祭プレイベント

7月6日（木）樺和会館（4号館）1階ホール 第4時限

■サマーライブ

8月30日（水）TAKE FIVE（JR吹田駅より7分） 午後2時～

■ボランティア演奏（毎月）

尼崎市内にある2箇所の介護福祉施設へ交互に隔月定期演奏訪問していきます。

訪問日程や詳しい内容については、センター前ラックのチラシをご覧ください。

※ご興味のある方は見学にお越し下さい。

■けやき祭（10月）

練習成果発表の場として出演予定。

■宝塚市「東公民館まつり」に参加

日程：10月下旬（詳しい日程は9月頃決定）

場所：宝塚市立東公民館ホール

時間：主催者側と調整で決定

アクセス：阪急宝塚線山本駅下車 徒歩約5分

■練習成果発表会（クリスマスライブ）

日程：12月（予定）

会場：1号館 第1音楽室（予定）

時間：検討中

以上が当面決まっている予定です。今後、他所より演奏依頼等があれば随時お知らせします。

けやきテニスクラブ

けやきテニスクラブのあゆみ

国際文化学科3年 鈴木 好夫

けやきテニス同好会の創設は平成23年11月と聞いています。私の入会はシニア専修コースに入学時(平成28年4月)で、それ以前については、先輩の資料により掲載します。

◇ 創設時期(平成23年11月～28年3月)

平成23年11月、メンバー5名により「けやきテニス同好会」を立ち上げるも、当初は月2回でコート1面をお借りして活動を行っていました。徐々に会員数も増え10名を超えるようになってからはコート2面の使用許可をいただくようになり、以後年々会員数も増え、月4回木曜日の午後と定期的な活動となりました。



◇ ブームの再来(平成28年4月～2年3月)

錦織圭、大坂なおみの活躍に伴うテニスブームの再来で、会員数も22名となりました。

しだいに練習や試合での待ち時間が多くなるようになり、その事情を理解していただき、コート2、3面をお借りするようになりました。

例会以外に、秋と春に開催される園田OG会の「テニスクリニック」に参加や、春と夏に行われる「関西学生テニス大会」の観戦(応援)に出かけたりもしました。



◆ コロナ期も(令和2年4月～5年4月)

新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言で、全国的に不要不急の外出自粛が要請され、散歩と買い物以外の外出は自粛としていました。

大学も長期休講で、先の見えない2年間が続くことになりましたが、そんな中でもテニスは3密を避けたスポーツと、テニスがしたい有志が集まり、令和3年9月から尼崎市の北東部にある猪名川公園にて「校外テニス会」を始め、今年の5月まで計40回実施してきました。



令和4年度になり、3年ぶりに大学の授業が再開されましたが、感染症予防の規制で学内におけるクラブ活動は出来ないままでした。

「けやき祭」では大学テニス部の仲間入りで、初めて参加しました。後日には大学テニス部とテニス会も行いました。今年の2月には「園田スポーツフェスティバル」にも参加しました。



◇ クラブ活動・再開(令和5年5月～)

令和5年4月より「けやきテニス同好会」は発足から13年目となり「けやきテニスクラブ」にクラブ名称の変更を行いました。

新型コロナによる2年間の休校の影響は大きく、退学されたかたも多くおられ、会員数は現在16名となっています。

新年度も5月に入り、大学の感染症予防の規制がようやく解除され、校内テニスコートの使用が可能となりました。長い期間待ちわびたクラブ活動が、4年ぶりに再開できました。



けやき朗読倶楽部

コロナ禍の中での 得たもの失ったもの

クラブ代表 金森 扶美子



やっと、ようやく学内の教室での活動ができるようになりました。嬉しいで〜す！

記憶はもはやおぼろおぼろですが、思い返せばこのコロナ禍の3年間クラブ活動も右往左往しました。

1年目は集まる場所もないしもう活動も無理かと覚悟していたところ、ITに強いN氏の「朗読はオンラインでいけるよ」と、オンラインとはどうするのかもわからない提案をもらい、早速お試し。幸いクラブ員のほとんどがパソコンを使用でき、「ズーム」操作にはやはり右往左往はしたものの実現できました。



発声練習はみんなですべて同時に揃ってするのですが、電波の都合上無理だとわかり各自勝手にやるとか、画面に声はすれども顔

が映らないとか、時々突然に押し黙ってフリーズしてしまうとか、またまた“ニャ〜ン”とばかり猫ちゃんが登場したりとか、今から思えば楽しく愉快的思い出もありましたっけ!?

一番困ったのが、それまで朗読する作品は代表の狭い読書量の中から勝手に選んで部員数をプリントして手渡していたけど、何しろ学校で会えないし、いちいち郵送するのも費用面でも無駄なこと。そこで考えついたのがネットで「青空文庫」という朗読する人たちのためのひとつの組織があるのを思い出し、その中から各自各回 順番に皆さんに作品を選択してもらい、それを各自でプリントアウトする方法を見つけました。おかげで部費を集めることもいらず、それぞれ皆さ

んの選んだ作品は各自の個性が現れ、自分では読まない分野の作品も読めるという新しい発見があり、ワクワクできたのは思わぬ収穫であったと思います。

例えば、トルストイ『イワンのばか』、国木田独步『忘れえぬ人々』、宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』、泉鏡花『貴婦人』、宮部みゆき『幻色江戸ごよみ』、新美南吉『屁』、長いものでは現代語訳『平家物語』、別役実『赤ずきんちゃんの森の狼たちのクリスマス』、宮沢賢治『銀河鉄道の夜』なども読みましたっけ。「青空文庫」は著作権の問題などで限られた作品しか取り上げられません。そんな中で比較的新しい西條奈加『心淋し川』をスキャンして下さったり……。

また、コロナ禍2年目のオンライン参加での「けやき祭」も僅か4名で桂三枝『美しく青き道頓堀川』を、3年目はやはり対面がいいと塚口南地域学習館を借りて活動し、新館4号館で上方落語『しちどぎつね』を朗読劇としてみんなで演じ、練習場所も時間も無い無い尽くしの練習不足の割には温かい目で見て下さって好評だったのも嬉しい思い出となりました。

朗読倶楽部も6年目に入り、学校が再開してみれば、コロナ禍の間に年齢も行き、生活の変化もありで幾人かの卒業や退部待機は淋しい限りです。

そこで、求む！朗読倶楽部員!! です。学校生活をエンジョイするには、クラブに入って人との輪を広げるのも一つの方法かと思っています。朗読に興味のある方の入部をお待ちしています。

連絡TEL： 090-7764-9177 金森まで



けやきゴルフ同好会

活動報告

研究生 川田 郁夫

けやきゴルフ同好会のこれまでの活動実績をお知らせいたします。

2020年年初に結成しコロナ禍で開催が遅れましたが10月よりスタートできました。2020年度からの開催実績は下記の通りです。

2020年		
	開催日	開催場所
第1回		コロナ禍により中止
第2回		コロナ禍により中止
第3回		コロナ禍により中止
第4回		コロナ禍により中止
第5回	10/13	レークスワンカントリー倶楽部
第6回	11/24	東条の森カントリークラブ

2021年		
	開催日	開催場所
第1回	3/23	センチュリー吉川ゴルフ倶楽部
第2回	4/20	小野グランドカントリークラブ
第3回	6/25	サンロイヤルゴルフクラブ
第4回	7/26	武庫の台ゴルフコース
第5回	10/22	東条パインバレーゴルフクラブ
第6回	11/11	東条ゴルフ倶楽部
第7回	12/16	宝塚高原ゴルフ倶楽部

2022年		
	開催日	開催場所
第1回	4/5	三田レークサイドカントリークラブ
第2回	6/28	小野グランドカントリークラブ
第3回	7/13	北神戸ゴルフ場
第4回	9/20	台風のため中止
第5回	10/27	センチュリー吉川ゴルフ倶楽部
第6回	11/29	雨天のため中止
第7回	12/21	神戸グランドヒルゴルフクラブ

今年度の予定は下記の通りです。今年は例年より梅雨入りが早く第2回は雨天のため中止となりました。第3回と第4回の開催日は表に示す日程で決定しております。第5回以降の開催日は1ヶ月前までに決める予定です。

2023年		
	開催日	開催場所
第1回	4/11	北神戸ゴルフ場
第2回	5/29	雨天のため中止
第3回	6/26(予定)	神戸パインウッズゴルフ倶楽部
第4回	7/18(予定)	センチュリー吉川ゴルフ倶楽部
第5回	9月(予定)	東条パインバレーゴルフクラブ
第6回	10月(予定)	関西クラシックゴルフ倶楽部
第7回	11月(予定)	武庫の台ゴルフコース
第8回	12月(予定)	アークよかわゴルフ倶楽部

学校の授業の都合で、なかなか全員が参加することは難しいですが、今までは各回とも2組での開催ができました。



4月開催例会にて

現在、正会員は11名ですが、卒業生及び会員紹介の客員会員の参加も歓迎しており、門戸を広げて会を盛り上げております。今年1名の新人を迎えることができ、大変喜んでおります。皆様の入会をお待ちいたしております。

入会申し込みは幹事の福島久雄まで連絡の程よろしく願いいたします。

幹事 福島久雄(文学歴史学科卒研究生)

電話 080-4560-2117

E-mail fksm2003@yahoo.co.jp

社会連携部 生涯学習センターからの お知らせ

ご挨拶

皆さまこんにちは。令和5(2023)年4月から、「社会連携推進センター」改め「社会連携部」の部長に就任いたしました寺田と申します。SONODAに入職し、学生支援一筋28年、務めてまいりましたが、この度、縁あって生涯学習と地域連携を担当することになりました。シニア専修コースの皆さんにおかれましては、学生と年齢は違えど、SONODAのキャンパスでの学びや、キャンパスライフの支援に変わりはありません。生涯学習センターのスタッフ全員で、皆さまのSONODAライフが充実していくよう取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。



1. 「社会連携推進センター」は今年度より、「社会連携部 生涯学習センター」と名称を変更いたしました。これからも変わらず、皆さまの学びや交流の場を支えてまいります。
2. シニア専修コースのクラブ同好会活動について昨年度は、大学の感染症対策本部会議から学内での活動をお控えいただくようご協力をお願いしておりましたが、今年度は学内での活動が許可されました。新生を含め、学内での活動をお楽しみください。
3. センター内に各学科・学年、各クラブのレターBOXの引き出しをご用意しておりますので、ご利用いただけます。研究生の方は、研究生ファイルを各自で確認できるように配置しております。
4. 社会連携部ブログ、けやきのわ(シニア受講生のための交流/クラブ同好会等が運営)プロ

グをご活用ください。

5. 今年度より、体調報告カードの提出は不要になりましたが各自、感染対策をしながら行動してください。本学では、マスクの着用は個人の判断に委ね、実習などの場面によっては、マスク着用を要請しています。
6. 学園祭「けやき祭」が10月14日(土)、15日(日)に開催されます。
今年度も来場型の開催へ向けて準備中です。
7. 4号館櫓和館前でグランマルシェが出店!



5月	glam marche
08日	ルパン
10日	AppleKitchen
10日	味たこ
12日	マーノ
15日	HTT 台湾
17日	bonnejournee
11:00~17:00	

カラフルなキッチンカーで焼き芋やクレープ、たこ焼きなど人気のお店が登場しています。センタースタッフのお気に入りにはメロンパンです。毎月の出店スケジュールは4号館入口に掲示していますので、ご覧ください。

警報発令時の授業について

シニア専修コース・公開講座の授業の取り扱いについて本学の規程に従い、「暴風警報」は休講となりますが、「大雨警報」・「洪水警報」の場合は、休講にはなりません。詳しくは、皆さまにお配りしているハンドブック4ページをご確認ください。ただし状況によって、急遽休講に変わる場合もありますので、各自「大学のホームページ」を随時ご確認ください。ご自身の安全を優先し、登校のご判断をいただけますようお願いいたします。



【大学 HP】



【社会連携部生涯学習センター】

▶ 編集後記 ◀

▶ 10年ほど前、当時京都に住んでいた嫁から「御所の小川で遊びませんか」と誘いが入った。もちろん「行くわ」と返事したことは言うまでもないが、本当に小川に入れるのかどうか半信半疑だったが、小川を見つけるなり3歳の孫は走って行きサンダルのまま小川に入った。いつもの手順なのだろう。嫁が笹舟を流すとそれを追いかけた。私はハンカチでウナギを作り泳がせた。賑やかな声が上がった。

あれから10年。時々あの小川を思い出すことはあっても訪ねたことはない。息子一家も京都から引っ越している。本当にあれは御所の小川だったのか？ネットで調べてみたら、御所の小川は出水の小川と呼ばれ京都御苑にあった。御所の外側にある公園部分が京都御苑。24時間オープンで誰でも自由に利用出来るとのこと。

コロナを忘れ、今年の夏は10年ぶりに御苑を訪ねてみようか。小川に足をつけてみよう！子供の頃の懐かしい夏に出会えるかもしれない。

研究生 西島 登志子

▶ 今号も皆様より読み応えある原稿をいただき、中でも心豊か懐かしさ溢れる投稿には、夢をいただいたと感謝しています。

研究生 木下 俊造

▶ けやき便り 28号で、いろいろな場所や時に、連れて行っていただきました。戦時中にも、病院にも、スキー場にも、種子島にも、九州の湿原にも……。日本の各地、世界の各地に！！筆者のその時の思いを読ませていただくことで気づくこと考えることが、いっぱいありました。クラブや学科の活動にも参加したくなりました。原稿をお寄せくださった皆様、ありがとうございます。皆様、次号にどうぞご投稿ください。

研究生 宮本 裕江

▶ 5月8日に新型コロナウイルスの感染症上の分類が5類に変更され、コロナは形式上は終息に向かうことになった。この時期をとらえて、「コロナに翻弄された時代」を「けやき便り」で記録すべきではないか……。そうしないと後世、「この時代コロナがまん延していたのに、どっかに旅行した話、映画観た話ばかり載せて、何てお気楽な雑誌！」と思われませんか？そんな脅迫観念に駆られて「園田シニア生はいかにしてコロナ禍を乗り切ったか」をテーマにした「コロナ座談会」を思い立ち、編集会議にかけたら、企画が通ってしまった。さあ大変！自分や家族がコロナに感染したと言ったセンシティブ情報も飛び出すこと必至。となれば「覆面座談会」にするか。こうなると何やら怪しげな雰囲気も漂ってきたのではないかと。さらに座談会で「コロナでえらい目にあった」「コロナ前に戻りたい」等々後ろ向きな話、恨み節ばかり出たらどうしよう？と悩みながら、ついに「コロナ座談会」の日が来てしまった。

だが、私の心配は杞憂に終わった。コロナに翻弄されながらも、自分の学び、趣味、日常生活を中断することなく、したたかに生き抜く姿が見てとれた。座談会に集まったのは「けやき便り」編集クラブのメンバーであったが、おそらくここに掲載された声は園田シニア生の最大公約数的な姿ではあるまいか？

国際2年 濱口 祐一

▶ 4年振りにチャティーで開催された国際文化学科の新生歓迎会に参加しました。軽食をとりながらの会話で、場の雰囲気も和み、初めて会う方との距離感もぐっと近くなった気がします。同じテーブルに座った方々との、ちょっとした会話から思わぬ発見があったり、対面での会で得られる親近感を感じました。その場の様子や出会った方のプロフィールは、次回のけやき便りでお伝えできればと思っております。

研究生 酒井 恵理子

▶ **コロナ感染予防規制緩和で、安心と不安の中で新学期の授業が始まりました。**クラスの中は楽しい空気に包まれていて、うれしく思っています。冊子の方は沢山の投稿があり、多種多様な内容になりました。次回も是非皆様のご投稿をお待ちしております。

研究生 峠田 桂子

▶ **今号では、玉城先生から「人を憶念する」と題された寄稿文をいただきました。**

「憶念」・・・はて？と調べると「深く思い、絶えず忘れないこと」とあります。文章から、先生の心の中で生き続けておられる「曾根先生」への、深くなつかしい思いが伝わってまいります。「曾根先生」が発せられた言葉そのものが、先生の豊かな人格というか、お人柄、周りの人々に対する暖かい思いやりを醸し出しているようです。私にとって「憶念」する人がどれだけいるだろう、人を幸せにする言葉とは、とふと考えました。

そして、特定の人だけではなく、過去の懐かしく忘れられない思い出も、私たちの心の中で生き続けます。今号の、林さんの心のふるさととなったジュネーブ、池田さんのカナダへのスキー遠征ツアーでの忘れられないハプニング、三谷さんの人生を変えてくれた YOKO さんとの出会い。

皆さんにとって、心の中で輝き続ける人生の宝物といえる思い出ばかりです。

玉城先生の文末のお言葉に「出会いは過去だけのものではなく、何度も出会い直すことができる。それがうれしい」とありました。

研究生 櫻井 秀也

「けやき便り」に投稿を！

「けやき便り」では皆さんからの自由投稿をお待ちしています。

1. 原稿について

原稿の長さは目安として、できるだけ0.5ページ(750字)～1ページ(1500字)でお願いします。多くとも2ページ(2700字)とし、写真・イラストを挿入する場合は、そのためのスペースとして、写真・イラスト1枚当たり100字程度を本文から減らしてお書き下さい。

① 手書きや印刷物で頂く場合

様式は問いません。生涯学習センター事務所の「けやき便り」編集クラブの連絡Boxに入れてください。

② パソコンやスマホを使用される場合

下記アドレス宛にファイルをお送りください。

hideyasakurai94@gmail.com 櫻井 秀也

③ 写真掲載について

「けやき便り」はウェブ上にも掲載されます。写真付きで投稿される方は、肖像権などの問題が生じないように事前に撮られる方の了解を得ていただくようお願いいたします。

2. 次の内容を含む投稿はお断りします。

① 宗教・政治に関するもの

② 公序良俗に反するもの

③ 一般常識の範囲を逸脱していて、「けやき便り」編集クラブが、掲載することを不可と判断したもの

3. 原稿は、一部変更・修正をすることがありますのでご了承ください。

① 紙面のレイアウトを整えるため

② 編集クラブで気がついたあきらかな誤記やわかりにくい記述、不適切な表現を避けるため

4. 投稿される方はお名前を書きいただきますようお願いいたします。無記名・匿名・ペンネームはご遠慮ください。

「けやき便り」第28号は、バックナンバーを含め、以下からご覧いただけます。

<https://onl.tw/H1n4YGt>

スマホでは、右のQRコードからご覧いただけます。

